

獄ヨリ短カラサル可シ

第二百十四條 罪ス可キノ所業ヲ謀リ其事ヲ施行セントスルヲ抵抗スル邪魔ヲ除カニ為メ又現行犯罪ニ於テ捕縛ヲ逃レニ為メ故ラニ人ヲ殺シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ処ス可シ

第二百十五條 尊屬ノ親ヲ故殺シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ処ス可シ

第二百十六條 己レヲ殺ス可シト切實ナル屬託ヲ受ケ故殺シタル者ハ三年ヨリ短カラサル禁錮ニ処ス可シ

白耳義

第三百九十三條 允故意人ヲ殺ス者ヲ故殺ト云フ即チ終身懲役トス

第三百九十四條 允豫謀人ヲ殺ス者ヲ謀殺ト云フ即チ死刑トス

第三百九十五條 允父母尊族親及庶父母ヲ故殺スルヲ弑親ト云フ即チ死刑ニ処ス

第三百九十六條 允見生ル、ノ際若クハ生ル、後直チニ殺ス者ヲ殺見ト云フ

殺見ハ事情ニ依リ故殺ヲ以テ論シ若クハ謀殺ヲ以テ論ス可シ

但不正ノ見イレシケム子孫イレシケム通類ヲ殺ス母ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ処ス可シ

不正ノ子ト雖モ謀殺スル母ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ処ス可シ

第三百九十七條 凡物質單品重品等諸種ノ方劑ヲ用ヒ飲食セシメ殺ス者ハ其即死ト時ヲ經テ死スルトヲ論セス毒殺ト云フ即チ死刑トス

第三百九十二條 凡構意殺傷セント要シ人ヲ殺傷スル者ハ其殺傷スル所冒中預定ノ人ナルト否トヲ論セス又他ノ情狀事故アルト其誤殺傷ナルトヲ論セス總テ構意殺傷ヲ以テ論ス可シ

第四百十一條 凡強暴ノ所行ニ逢ヒ身命危キハ宥恕ス可シ

第四百十二條 凡白日ニ墻壁ヲ越ヘ或ハ住屋居室及其附屬所ノ戸ヲ破壊シ侵入スル者ヲ其主人毆殺傷シ其狀ヲ檢スルニ侵入者面アタリ其主人ヲ害セントスル勢アルカ或ハ防禦ニ抗拒セントスル勢アルノ証ヲ得ル者ハ寛恕ス可シ

第四百十三條 凡夫及ヒ婦タル者ニシテ姦夫若クハ姦婦ヲ其犯姦所ニ殺毆傷スル者ハ寛恕ス可シ

第四百十四條 凡情狀顯跡アリテ宥恕律ニ依テ論ス可キ者

本刑死終身懲役ニ該ルハ一年ヨリ五年マテ

ノ獄ニ処シ一百「フラン」クヨリ五百「フラン」ク
マテハ罰金ヲ命ス可シ
他ノ重罪ニ属スル者ハ皆六月ヨリ二年マテ
ノ獄ニ処シ五十「フラン」クヨリ五百「フラン」ク
マテノ罰金ヲ命ス可シ
輕罪ニ属スルハ皆八日ヨリ三月マテノ獄ニ
処シ二十「フラン」クヨリ一百「フラン」クマテ
ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百十五條 九尊族ノ嫡親及庶父母ヲ殺毆
傷スル者ハ本套中ノ寛恕律ニ依テ論スルヲ
得ス

第四百十六條 凡己レノ生命若クハ他人ノ生
命危急ニ迫リ之ヲ防クニ當リ殺毆傷スル者
ハ無罪トス

第四百十七條 九夜中墻壁ヲ越ヘ若クハ居家
住室及其附屬窓戸ヲ壊破シ侵入スル者其主
人ヲ害スルモ計ルヘカラサル情實アルカ又
ハ之ヲ防禦シ抗拒スル勢ニ因テ殺毆傷スル
者ト及生命ヲ害セントスル強盜暴奪ヲ防禦
スルニ因テ殺毆傷スル者トヲ防殺毆傷ト云
フ

○埃及

第二百四條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リシ確
証アリテ人ヲ故殺セシ者ハ死刑ニ処セラレ
可シ

第二百五條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルトハ其兇行ヲ爲ス前ニ預メ特定セシ人又ハ其場
処ニ居合ハセ或ハ出逢フ可キ人ノ生命ヲ害
セント謀リシヲ云フ但シ其謀計ノ縱令偶然
ニ生シタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第二百六條 迅速ヲ問ハス人ヲシテ死ニ至ラ
シム可キ毒藥ヲ用ヒ或ハ人ノ來ルヲ待テ害
ヲ加ヘント爲ス時ハ預メ人ニ害ヲ加ヘント
謀リシモノト爲ス可シ

第二百八條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルトナ
ク人ヲ故殺シタル者ハ十五年間徒刑ニ処セ
ラル可シ

第二百九條 然レモ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ
犯ス前後或ハ之レト同時ニ他ノ重罪ヲ犯シ
タル時又ハ輕罪ノ設備ヲ爲シ或ハ輕罪犯ヲ
容易ナラシメ或ハ輕罪ヲ行フ爲メ或ハ輕罪
ノ犯人又ハ其同罪人ノ遁亡或ハ其罰ヲ免ル
、ヲ助クル爲メ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ犯
シタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ処ス可シ

第二百十條 人ヲ殺スノ罪ヲ犯セシ本人ヲ死
刑ニ処ス可キ時ハ其同罪人ヲ有期ノ徒刑ニ
処ス可シ

第二百十一條 死刑ヲ言渡サレシ犯人特別ノ
寬典ヲ以テ其刑ヲ宥ルサレタル時ハ無期ノ
徒刑又ハ有期ノ徒刑ニ処ス可シ但シ有期ノ
徒刑ハ十五年ヨリ短キトナル可シ

第二百十二條

預メ人ニ害ヲ加ヘシト謀リ故
殺ノ罪ヲ試ミ爲シタル時ハ其創傷毆撃ノ輕
重ヲ問ハス又全ク人ニ害ヲ加フル能ハサル
ニ管セス其犯人ヲ有期ノ徒刑ニ処ス可シ

第二百十九條

人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ノ罪ヲ
犯スト共ニ官命ニ抗シ又ハ掠奪ヲ爲スノ罪
ヲ犯セシ時ハ此等ノ犯罪ノ本人ヲ法律ニ循
ヒ刑ニ処ス可キノミナラス其煽動者及ヒ挑
唆者モ亦其犯罪本人ト同一ノ刑ニ処ス可シ

第二百二十條

人ヲ指揮シ其意ノ如ク行ハシ
ム可キ強制ノカアル者ノ指揮ニ因テ人ヲ殺
スノ罪ヲ犯セシ者アル時ハ其指揮者ノミニ
人ヲ殺スノ罪アリト爲シ之ヲ其刑ニ処ス可
シ

強制ノカアルトハ其指揮ニ從フヲ肯セサル

者ヲ殺ス可キカアルヲ云フ○此場合ノ外ハ

右ノ如キ指揮ニ從フタル者其罪ノ宥恕ヲ得

可カラス人ヲ殺スノ罪アリト爲シ其刑ニ処

セラル可ク又強制ノカタク人ヲ殺ス可キノ

指揮ヲ爲シタル者ハ有期ノ徒刑ニ処セラ

ル可シ

第二百二十二條

己レノ生命ヲ防護シ或ハ人

ノ生命ヲ防護スル爲メ又ハ己レノ身体或ハ

人ノ身体ノ猥褻ノ暴行ニ罹ルヲ防ク爲メ現

ニ己レヲ得ス人ヲ殺シ又ハ創傷シタル者ハ

刑ヲ受テルヲナカル可シ

第二百一十三條 又夜間家屋、店舖、房室ニ攀援
スルキヲ防キ又ハ鎖鑰ヲ以テ閉キタル所ヲ
破壊シ或ハ墻壁及ヒ人ノ住居スル家屋或ハ
其入り口ヲ破壊スル者ヲ防ク爲メ人ヲ殺シ
又ハ創傷毆撃シタル者ハ亦刑ヲ受クルトナ
カル可シ

若シ晝間前項ニ記セシ事ヲ行フタル時ハ人
ヲ殺シ又ハ創傷毆撃セシ所為ヲ全ク無罪ト
爲ス可カラス其刑ノ宥恕ヲ受ケシ者ヲ第二
百二十六條ニ循ヒ処置ス可シ

第二百二十四條 婦ノ現ニ姦通ノ罪ヲ犯スラ
見テ其場ニ於テ婦及ヒ姦夫ヲ殺セシ者ハ亦
其刑ノ宥恕ヲ受ク可シ

第二百二十五條 官ノ兵士或ハ公ケノ兵カラ
預カル者其特別ノ規則ヲ遵守シテ職務ヲ行
フニ方リ之レカ襲撃ヲ防ク爲メ人ヲ殺シ又
ハ創傷毆撃ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ノ宥恕
ヲ受ク可カラス

第二百二十六條 人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ノ罪
ヲ犯セシ者其刑ノ宥恕ヲ得タル時ハ輕罪ニ
就テハ三月ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ重罪ニ就テハ
六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間
禁錮ノ刑ニ処セラル可シ但シ法律上ニ輕罪
ニ就テ其刑ヲ宥恕スルトナシト雖モ三月以
上六月以下ヨリ更ニ輕キ刑ヲ定ムル片ハ此

例ニ非ス

重罪ハ就テハ右刑ノ宥恕ヲ得シ者ヲシテ其罪ノ輕重ニ准シ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシ

第二百二十七條 此一章中ニ記シタル如何ナル場合ニ於テモ「セリ」ノ法律ヲ以テ裁判ヲ受ク可キ各人ニ就テハ殺害及ヒ創傷毆撃ノ罪ヲ其法律ニ循テ裁定ス可ク又損害ノ償ハ通常法律ニ定ムル規則ニ循テ之ヲ爲サシム可シ

○英吉利

凡先ツ人ヲ殺サント謀ル_ルト明白ニシテ後殺ス者ヲ謀殺ト爲シ重罪ニ坐シ絞ニ処ス若シ先ツ自ラ人ヲ殺サント謀ラス或ハ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺サスト雖モ理ニ於テ人ノ必ス死スヘキト行ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者モ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス假令ハ故ヲニ曾テ人ヲ傷害スル所ノ熊犬等ヲ放チ因テ人ヲ咬殺スル如キヲ謂フ

其幼稚風癲痴愚人等ノ犯ス者ハ此律ヲ用ヒス謀殺人
凡卒然ノ忿激ニ出ルト雖モ匪法酷暴ニ事ヲ行ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ預メ殺サント謀ラスト雖モ其心已ニ極惡ナレハ仍ホ謀殺ヲ以

例ニ非ス

重罪ニ就テハ右刑ノ宥恕ヲ得シ者ヲシテ其罪ノ輕重ニ准シ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシ

第二百二十七條 此一章中ニ記シタル如何ナル場合ニ於テモセリノ法律ヲ以テ裁判ヲ受ク可キ各人ニ就テハ殺害及ヒ創傷毆撃ノ罪ヲ其法律ニ循テ裁定ス可ク又損害ノ償ハ通常法律ニ定ムル規則ニ循テ之ヲ爲サシム可シ

○英吉利

凡先ツ人ヲ殺サント謀ルト明白ニシテ後殺ス者ヲ謀殺ト爲シ重罪ニ坐シ絞ニ処ス若シ先ツ自ラ人ヲ殺サント謀ラス或ハ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺サスト雖モ理ニ於テ人ノ必ス死スヘキト行ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者モ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス假令ハ故ラニ曾テ人ヲ傷害スル所ノ熊犬等ヲ放テ人ヲ咬殺スル如キヲ謂フ

其幼稚風癲痴愚人等ノ犯ス者ハ此律ヲ用ヒス謀殺人
凡卒然ノ忿激ニ出ルト雖モ匪法酷暴ニ事ヲ行ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ預メ殺サント謀ラスト雖モ其心已ニ極惡ナレハ仍ホ謀殺ヲ以

論ス假令ハ家長奴婢ノ法ニ違ヒ因テ決罰ス
ルニ鐵杖ヲ把テ毆撃シ或ハ師匠ノ弟子ヲ決
罰スルニ胸腹ヲ踏踏シ因テ死ニ致ス如キヲ
謂フ匪法行事殺人

凡外國人及ヒ法外人ト雖モ如シ之レヲ殺ス者
ハ國人ヲ殺ス者ト罪同シ殺外國人及法外人
凡人ヲ傷害セント欲シ故ラニ馬脚ヲシテ蹴踢
セシメ或ハ羣聚スル地へ發砲シ因テ人ヲ殺
ス者ハ預メ殺サント謀ル人ナキト雖モ害ヲ
衆庶ニ及サントスレハ亦タ同ク謀殺罪ヲ以
テ論ス馬脚銃砲殺人

凡二人以上共ニ同ク他人ヲ毆テ或ハ徒黨ヲ企
テント謀リ其一人因テ人ヲ殺ス者ハ謀殺ヲ
以テ論シ餘人皆其罪ニ同クス共謀毆人致死

凡捕吏ノ已レヲ追弔スルヲ聞知シテ之レヲ
拒防シ因テ死ニ致ス者ハ謀殺ヲ以テ論ス拒
殺捕吏

凡人ヲ毒殺セント謀リ藥ヲ設クルニ其人之レ
ヲ取ラス餘人ノ誤テ吞ミ死スル者モ亦謀殺
ヲ以テ論ス誤毒殺人

凡父母及ヒ夫若クハ家長ヲ殺ス者ト雖モ並ニ
常人ノ殺罪ニ依テ論シ罪別異ナシ殺父母夫
及家長

凡人ヲ謀殺セントシ罪狀已ニ明白ナル者ハ其
己ニ人ヲ傷シ及ヒ未タ傷セサルヲ問ハス並
ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ処

シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ処シ若シクハ
苦役及ヒ監牢ヲ加フ謀殺人罪状明白者

凡人ヲ廢疾篤疾ニ爲サント謀リ或ハ捕吏ノ掣
獲ヲ拒防セシテ謀リ因テ人ヲ殘傷シ若ク
ハ發砲スル者モ重罪ニ坐シ罪前條ニ同シ謀
廢篤疾人

凡故ヲニ火藥破裂物等ヲ破裂セシメ人ヲ燬傷
シ及ヒ廢篤疾ニ至ラシムル者ハ重罪ニ坐シ

謀殺人罪状明白者ニ依テ論シ且ツ打背罪ヲ
加フ年十六以下ノ者犯スト雖モ判事ノ適意
ニ依テ仍ホ本刑ヲ加フ

若シ情ヲ知テ爲メニ火藥破裂物等ヲ製造シ
或ハ送與シ若クハ熱灰等ヲ以テ人ニ投擲シ
因テ人ヲ燬傷シ及ヒ廢篤疾ニ爲サント謀ル
者ハ人ヲ傷スルト傷セサルトヲ問ハス罪亦
同シ火藥燬傷人

凡凶藥ヲ以テ人ヲ迷死セシメ因テ事ヲ行ハシ
ト謀ル者ハ其自ラ之レヲ與ヘ及ヒ人ヲシテ
與ヘシメ或ハ己ニ與ヘ及ヒ未タ與ヘサルト
ヲ問ハス重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者ヲ以
テ論シ仍ホ判事ノ適意ニ依テ打背罪ヲ加フ
凶藥迷死人

凡人ノ惡風ニ遇ヒ其船隻己ニ破損シ或ハ暗礁
ニ掛リ其艱苦スルヲ見テ故ヲニ援濟セス
放棄スル者ハ重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者
ニ依テ論ス見破船不獲

シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ処シ若シクハ
苦役及ヒ監牢ヲ加フ謀殺人罪状明白者

カニシテ
ハシラズ

疾篤疾ニ為サント謀リ或ハ捕吏ノ掣

獲ヲ拒防セニテ謀リ因テ人ヲ残傷シ若ク

ハ發砲スル者モ重罪ニ坐シ罪前條ニ同シ謀

發篤疾人

允故ヲニ火藥破裂物等ヲ破裂セシメ人ヲ燬傷

シ及ヒ發篤疾ニ至ラシムル者ハ重罪ニ坐シ

謀殺人罪状明白者ニ依テ論シ且ツ打背罪ヲ

加フ年十六以下ノ者犯スト雖モ判事ノ適意

ニ依テ仍ホ本刑ヲ加フ

若シ情ヲ知テ為メニ火藥破裂物等ヲ製造シ

或ハ送與シ若クハ熱火等ヲ以テ人ニ投擲シ
因テ人ヲ燬傷シ及ヒ發篤疾ニ為サント謀ル

者ハ人ヲ傷スルト傷セサルトヲ問ハス罪亦

同シ火藥燬傷人

允凶藥ヲ以テ人ヲ迷死セシメ因テ事ヲ行ハシ

ト謀ル者ハ其自ラ之レヲ與ヘ及ヒ人ヲシテ

與ヘシメ或ハ己ニ與ヘ及ヒ未タ與ヘサルト

ヲ問ハス重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者ヲ以

テ論シ仍ホ判事ノ適意ニ依テ打背罪ヲ加フ

凶藥迷死人

允人ノ惡風ニ遇ヒ其船隻己ニ破損シ或ハ暗礁

ニ掛リ其艱苦スルヲ見テ故ヲニ援濟セス

放棄スル者ハ重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者

ニ依テ論ス見破船不獲

凡自ラ其生命ヲ殺害スル者ヲ墮罪殺犯ト云前
 條ノ免スヘキ者ト別異ス其自殺スル者ハ元
 ト自ラ人事ノ難苦ニ堪ユヘキ精カタクニテ
 之レヲ脱避セシ爲メニ其生命ヲ殘害スル者
 ナレハ勇アルニ似テ却テ其實ハ怯ナル者ナ
 リ希臘國ノ法律ニテハ之レヲ罰スルニ其手
 ラ斬ス英律ニテハ人各造物者ヨリ稟ル所ノ
 生命ニアレハ天命ニアラスニテ私ニコレヲ
 滅亡スルヲ得ス故ニ若シ自殺ヲ犯ス者ア
 レハ之レヲ二項ノ犯罪ト爲シ一ハ法門ニテ
 天命ヲ犯シ及ヒ造物者ノ意ニ戾ル者ト爲シ
 一ハ俗間ニテ國君ノ其臣下ヲ保護スル所ノ
 義ニ反スル者トナシ因テ之レヲ大罪トス

若シ人ヲ教唆シテ自殺ヲ犯サシムル者ハ謀
 殺ノ前従ナル者ト爲シテ論ス犯自殺
 凡人ヲ殺サント謀リ却テ其身ヲ誤殺スル者ハ
 仍亦自殺ノ罪ヲ以テ論ス假令ハ人ヲ砲殺セ
 ント欲スルニ其銃破裂シテ身自ラ死スル者
 ノ如キラ謂フ
 若シ人ニ懇求シテ其身ヲ殺サシムル者ハ自
 殺ノ罪ヲ以テ論スルヲ得ス其許諾ヲ受ケ
 テ之レヲ行フ者ヲ以テ謀殺ノ罪ニ坐ス
 若シ二人共ニ同死ヲ謀リ其一人己ニ死シテ
 餘ノ一人未タ死セサル者モ亦謀殺ノ罪ニ坐
 ス謀殺人誤殺其身
 凡瘋癲人ノ自殺ヲ犯ス者ハ固ヨリ情思ヲ知ラ

サレ者ニアレハ自殺ノ罪ヲ以テ論スルヲ
得スト雖モ其罪ヲ犯ス時瘋癲ニ非ラス全ク
常人ト異ナラサル者ハ前後縦ヒ瘋癲ト雖モ
仍ホ常人自殺罪ヲ以テ論ス瘋癲人犯自殺
凡自殺ヲ犯ス者ハ之レヲ罰スルニ身後ニ遺ス
ヘキノ産業及ヒ存スヘキノ聲譽ヲ以テ其罪
ヲ罰ス乃チ其財産ヲ官府ニ籍没シ及ヒ宗門
ノ式禮ヲ以テ之レヲ葬埋スルヲ許サス且
ツ官吏ノ査檢ヲ經ル後二十四時内ノ夜更九
時ヨリ十二時ニ至ル間ニ於テ其餘骸ヲ埋メ
シム犯自殺者処刑

凡事卒然ト發リ互ニ鬪毆シ一時ノ忿激ニ堪ヘ
ス因テ人ヲ死ニ致ス者ハ有心鬪毆殺トナシ
重罪及ヒ鬪毆殺ノ罪ニ坐ス如シ即時ニ非ラ
ス怒氣過クルノ後殺ス者ハ仍ホ謀殺罪ヲ以
テ論ス

若シ本夫姦夫ヲ姦所ニ殺ス者モ固ヨリ一時
ノ忿怒ニ出レハ仍ホ鬪毆殺ヲ以テ論ス
其強姦ヲ殺ス者ハ論スルヲナカレ 有心鬪毆
殺

法ニ於テ爲スヘキヲ爲スト雖モ法ニ依テ其
事ヲ行ハス若クハ思慮ヲ用ヒスシテ因テ誤
テ人ヲ死ニ致ス者モ亦無心鬪毆殺トナシ其
事情ニ依テ過誤鬪毆謀殺罪等ニ坐ス假令ハ
工匠ノ村里人行稀少ナル所ニ於テ預メ報知
シテ屋上ヨリ瓦石材木等ヲ投擲シテ下ニ人

アリ死ニ致者ハ乃チ謀殺ト爲ス如シ都下人
 行盈満ノ地ニ於テハ預メ報知スト雖モ如シ
 死ニ致ス者ハ乃チ闘毆殺ヲ以テ論ス
 如シ下ニ人アルヲ知リ告知セスシテ瓦石
 材木等ヲ投擲シ因テ死ニ致ス者ハ乃チ謀殺
 ラ以テ論スルノ類ヲ云フ無心闘毆殺
 允保辜限内ハ其罪犯人ヲ殘傷セシムル日ヨリ
 通計シ一年一日即チ三百六十六日ヲ以テ期
 限ト爲シ如シ限内ニ於テ死ニ至ル者ハ其殺
 罪ニ坐ス保辜限内

凡人ヲ殺ス者ハ死ス是レ理ノ當然ト雖モ然ト
 モ人ヲ殺シテ仍ホ罰ス可ラサル者アリ其判
 事ノ國ノ定律ニ議擬照依シテ罪犯ヲ死ニ措
 シ是レ其職ニ委任スル所ナレハ固ヨリ罰ス
 ルトナシト雖モ如シ其法及ビ職ニ依ラサル
 者ハ免サス故ニ重犯ノ囚ト雖モ輒ク殺死ス
 ル者ハ仍ホ謀殺ノ罪ニ坐ス判事モ皇命ヲ奉
 承スルニアラスシテ擅ニ死罪ヲ判決スル者
 ハ亦同シ

其行刑ニ至テハ行決官吏ナル者アリテ行決
 ラ行フ外ハ餘人ハ之ヲ行フヲ許サス縱ヒ
 判事ト雖モ之ヲ侵ス時ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論
 ス况ヤ常人ニ於ルヤ然レモ行決官吏ハ止夕
 官司ノ刑案ニ從テ行決ヲ行フヲ得ヘシ自
 ラ商量スルヲ許サス故ニ絞スヘキラ故ラ
 ニ斬シ斬スヘキラ故ラニ絞スル者モ亦謀殺

ト爲ス人命論

凡捕吏ノ法ニ依テ捕獲セントスルヲ犯人拒捕
毆撃シ因テ死ニ致ス者或ハ兇徒衆ヲ聚メ反
叛セントスルヲ捕吏之ヲ殺シテ其餘黨ヲ散
亂セントスル者若クハ獄中ニ於テ囚人ノ囚
獄官吏ヲ襲撃シ因テ之ヲ防禦セントシテ殺
ス者或ハ重罪ヲ犯シ若クハ人ヲ傷殘スル者
ヲ捕吏捕獲セントスルニ罪犯其己レヲ捕獲
スルヲ聞知シテ逃走スルヲ捕吏逐殺スル
者ハ並ニ其罪ヲ論セス
若シ重罪ヲ犯ス者ヲ見レハ常人ト雖モ即時
ニ捕獲スルヲ許ルス如シ拒捕及ヒ逃走シ
テ之ヲ殺死スルモ亦捕吏ト同ク其罪ヲ論セ

ス
以上各項人ヲ殺シテ仍ホ罰ス可ラサル者ト
雖モ但夕其止ムヲ得サルヲ明白ニスヘシ
假令ハ如シ之ヲ殺サ、レハ兇徒蔓延シ罪囚
逃走スル類ヲ云フ殺人不可罰者

凡謀殺強盜若クハ夜中人ノ房屋ヲ破壊セント
スル者ヲ事主或ハ奴僕擅ニ之ヲ殺シ及ヒ他
人ノ偶然ト其場ニ在リ傍ヨリ事主ヲ救護シ
テ之ヲ殺ス者ハ並ニ其罪ヲ論セス
其強逼及ヒ兇惡ヲ爲スニ非スシテ輒ク殺ス
者ハ其罪ヲ免サズ假令ハ人ノ衣服内ノ金銀
ヲ掏摸セントシ或ハ白晝人ノ房屋ヲ破ラシ
トスル者ヲ殺セ、ハ仍ホ其殺罪ニ坐ス擅殺重

犯

凡強姦ヲ以テ人ニ逼迫セラレシ婦女拒防シテ
之レヲ殺ス者若クハ親夫其女妻ノ強姦セラ
レントスルヲ見テ殺ス者ハ並ニ其罪ヲ免ス
其婦女ノ和姦ナルヲ知テ殺ス者ハ免サス
若シ鷄姦ヲ以テ強逼セラレ拒防シテ之レヲ
殺ス者モ亦其罪ヲ免ルス拒殺強姦

凡人ヲ殺スニアラサレハ自己ノ生命ヲ須臾モ
保全スルヲ能ハスルニ因テ死ニ致ス者ハ
其罪ニ坐スルヲ得ス假令ハ二人共ニ同船
ニ乗リ悪風ニ遇ヒ其船隻破壊シテ一片ノ船
板ヲ得テ之レニ同ク其身ヲ止留スト雖モ此
時ニ於テ若シ其一人ヲ棄放スルニ非レハ自
己ノ生命ヲ須臾モ救フヲ能ハサルヲ圖リ依
テ其一人ヲ水中ニ突放スル者ノ如キヲ謂フ
殺人全已

凡人ニ卒然ト侵撃セラレ其身ヲ防救セン為メ
ニ之レヲ殺ス者ハ法ニ於テ人ヲ殺シテ其罪
ヲ免スヘキ者トス是レ止夕事火急及ヒ暴酷
ニ起リ如シ捕吏ノ来ルヲ待テハ必ス其身ヲ
害セラレンヲ圖リ殺ス者ノ外ハ其罪ヲ免
サス故ニ其殺罪ヲ免スニハ必ス其人思慮外
ニナク又避逃スルヲ得スニテ殺スヲ明
カニスヘシ

其卒然ト二人相闘毆シ其一人事切迫ニ非ラ
スシテ之レヲ毆殺スル者ハ闘毆殺ヲ以テ論

如シ人ノ侵撃スルト雖モ共ニ争フヲ欲
セス嫌避セントスルヲ逼勒シ止ムヲ得ス
シテ殺ス者ヲ防身殺ト爲シ闘毆殺ト別異ス
又其身ヲ防禦スル爲メニ人ヲ殺ス者ハ先ツ
其事情及ヒ時間ヲ鞫問明白ニシテ後其罪ヲ
免スヲ得若シ始メ暴撃セラレレ事訖ル
後或ハ逃走スルヲ毆撃シ之レヲ殺ス者ハ是
レ其恨ヲ報復スル爲メニシテ身ヲ防禦スル
爲メニ非ラス故ニ仍ホ謀殺罪ヲ以テ論ス假
令ハ甲乙二人相争闘シ甲始メ手ヲ下シテ乙
ヲ毆チ乙逃走スル後甲ノ来ルヲ見テ毆殺ス
ル者ハ是レ時間已ニ過キ事情惡ムヘキ者ナ
レハ其罪ヲ免ルスヲ得サルノ類ヲ謂フ防

身殺人

允親子兄弟及ヒ夫婦若クハ家長奴婢等互ニ其
危急ヲ防救シ止ムヲ得スシテ他人ヲ殺ス
者ハ自ラ其身ヲ防禦シテ殺ス者ト同ク人ヲ
殺シテ免ルスヘキモノトシ其罪ヲ論セス親
属相爲防救

允罪案全ク成ル後ニ其實事顯發スト雖モ更ニ
罪犯ヲ推鞠シテ再案ヲ作ルヲ得ス假令ハ
人ヲ毒殺スル罪案成テ後チ砲殺又殺等ノ甚
異ナル所ノ確證顯發スレハ更ニ罪案ヲ改正
スルヲ得ス因テ罪犯ハ其罪ヲ免ル、ヲ得
ヘシ

其少ク異ナル者ハ此例ニアラス 罪案成後事

榮不得作再案

第五十六 人ヲ創傷毆撃シ及人ノ健康ヲ害ス
ル等ノ雜犯

○佛蘭西

第三百九條 (千八百六十三年五月十三日如左
改ム)故意ヲ以テ人ヲ創傷シ又ハ毆撃シ又ハ
人ニ對シテ其他ノ暴行ヲ加ヘタル時其暴行
ヲ受ケシ者ヲシテ之レカ爲メ二十日以上ノ
時間病ニ罹リ或ハ職業ヲ營スルヲ能ハサル
ニ至ラシメタルニ於テハ其犯人二年ヨリ少
カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ
處セラレ且十六^フラシクヨリ少カラス二千
^フラシクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク
可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少
カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條
ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムル
ヲ得ヘシ

前ニ記シタル暴行ヲ受ケシ者ヲシテ不具ニ
至ラシメ療治ノ為メ切斷ヲ受ケシメ其他四
支ヲ使用スルヲ能ハサラシメ两眼ヲ失ハシ
メ一眼ヲ失ハシメ或ハ他ノ痼疾ニ至ラシム
ル片ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ
処セララル可シ

若シ殺スノ意ナク故意ヲ以テ毆傷ニ其毆傷
ヲ受ケシ者ノ死ニ至リシ片ハ其犯人有期ノ
徒刑ニ処セララル可シ

第三百十條

(千八百六十三年五月十三日如左)

改ム)若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人
ノ未ルヲ待テ人ヲ創傷或ハ毆撃シ又ハ其他
ノ暴行ヲ加ヘタルニ因リ其創傷、毆撃又ハ暴
行ヲ受ケシ者ノ死ニ至リシ片ハ其犯人無期
ノ徒刑ニ処セララル可シ若シ其暴行ヲ受ケシ
者ヲシテ不具ニ至ラシメ療治ノ為メ切斷ヲ
受ケシメ其他四支ヲ使用スルヲ能ハサラシ
メ两眼ヲ失ハシメ一眼ヲ失ハシメ或ハ他ノ
痼疾ニ至ラシムル片ハ其犯人有期ノ徒刑ニ
処セララル可シ又第三百九條ノ首項ニ記シタ
ル場合ニ於テハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役
スル刑ニ処セララル可シ

第三百十一條

(千八百六十三年五月十三日如

左改ム)人ヲ創傷毆撃シ又ハ其他ノ暴行ヲ人ニ加フルト雖モ其暴行ヲ受ケシ者第三百九條ニ記シタル種類ノ病ニ罹ルヲ十ク又ハ職業ヲ營スル能ハサルニ至ルヲ十キ片ハ其犯人六日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミニ処セラル可シ

若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ来ルヲ待テ前ニ記シタル罪ヲ犯セシキハ其犯人二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百十二條

(千八百六十三年五月十三日如

左改ム)故意ヲ以テ法ニ適シタル父母又ハ法ニ適セサル父母養父母及ヒ其他法ニ適シタル尊屬ノ親ヲ創傷又ハ撃毆シタル者ハ左ノ刑ニ処セラル可シ

若シ其創傷又ハ毆撃ヲ受ケシ者第三百九條ニ記シタル種類ノ病ニ罹ルヲ十ク或ハ職業ヲ營スル能ハサルニ至ルヲ十キ片ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ処セラル可シ若シ其創傷又ハ毆撃ヲ受ケシ者二十日以上

ノ時間其職業ヲ營スルヲ能ハサルニ至リニ
時又ハ其犯人預メ害ヲ加ヘント謀リ或ハ人
ノ来ルヲ待テ創傷毆撃ヲ加ヘタル片ハ其犯
人至重ノ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ処セ
ラル可シ

若シ前ニ記シタル父母又ハ尊屬ノ親ニ非サ
ル者ニ對シ行フタル罪犯徒刑場内ニ於テ使
役スル刑ニ処ス可キモノタル片之レヲ其父
母又ハ尊屬ノ親ニ對シ犯シタルニ於テハ有
期ノ徒刑ニ処セララル可シ

若シ父母又ハ尊屬ノ親ニ非サル者ニ對シ行
フタル罪犯有期ノ徒刑ニ処ス可キモノタル
片之レヲ其父母又ハ尊屬ノ親ニ對シ犯シタ
ルニ於テハ無期ノ徒刑ニ処セララル可シ

第三百十三條 此一款ト前款トニ記シタル輕
重罪ヲ犯ス片官命ニ抗スル羣聚ヲ爲シ且之
ニ附加シテ掠奪ヲ行フタルニ於テハ其群聚
及ヒ掠奪ノ首謀又ハ之ヲ挑唆シタル者ニ其
輕重罪ヲ歸シ此等ノ者ヲ其群聚中ノ自ツカ
ラ其罪ヲ犯セシ者ト同一ノ刑ニ処ス可シ

第三百十五條 前條ニ記シタル輕罪ノ刑ノ外
裁判所ヨリ其犯人ヲシテ二年ヨリ少カラス
十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケ
シム可キノ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第三百十六條 畢凡ヲ切リタル重罪ヲ犯セシ
者ハ無期ノ徒刑ニ処セララル可シ

若シ罪ヲ切リシ時ヨリ四十日内ニ其者ノ死スル時ハ其犯人死刑ニ処セラル可シ

第三百十七條 第四項

何レノ方法ヲ論セス人ヲ殺スノ質ナク人ノ健康ヲ害ス可キ質アル物品ヲ故意ヲ以テ人ニ用ヒ其人ヲシテ病ニ罹ラシメ又ハ其職業ヲ營スル能ハサルニ至ラシメ者ハ一月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且十六「」ヲクヨリ少カラス五百「」ヲクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ二年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

若シ其害ヲ受ケシ者二十日以上ノ時間病ニ罹リ又ハ職業ヲ營スル能ハサルニ至リシ時ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ処セラル可シ

若シ其犯人第三百十二條ニ記シタル父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ニ對シ此條ノ第四項及ヒ第五項ニ記シタル輕重罪ヲ犯シタル時ハ第四項ノ犯人ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ処セラレ第五項ノ犯人ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第三百十四條

「」スチ「」ル極懐剣テ小形ナ「」ト口
「」ル極短メ銃ノ小形種又ハ其他法律或ハ行政規則ヲ以テ制禁シタル各種ノ兵器類ヲ製造

シ或ハ販賣シタル者ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ
此等ノ兵器ヲ携ヘシ者ハ十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
何レノ場合ニ於テモ此等ノ兵器ハ官ニ没収ス可シ
此規則ト前ニ記シタル犯人他ノ重罪ヲ犯シタル片更ニ重キ刑ニ処セラル可キ規則ト相觸ル、トナル可シ

○ 獨逸

第二百二十三條 故ラニ各種居動ヲ爲シ他人ノ健康ニ害ヲナシタル者ハ身體ヲ害シタル罪トナシ三年ヨリ長カラサル禁獄或ハ三百フランクニ至ル罰金ニ処ス可シ
若シ尊屬ノ親ニ對シ其居動ヲ爲シタル時ハ裁判所ニ於テ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ処ス可シ

第二百二十四條 各種居動ヲ受ケタル人ノ緊要ナル四肢或ハ兩目又ハ唯一目又ハ聽覺語音ノ具或ハ氣機ヲ失ハシメ又ハ其害ヲ受ケタル者篤疾癡疾トナリ或ハ之レニ因テ委痺精神病トナリタル時ハ五年ニ至ル徒刑或ハ一年ヨリ短カラサル禁獄ニ処ス可シ

第二百二十五條 前章ニ記シタル害ヲ爲サン
タメ預メ謀リテ行フタル者ハ二年ヨリ十年
ニ至ル徒刑ニ処ス可シ

第二百二十六條 若其傷ヨリシテ其害ヲ受ケ
タル人ヲ死ニ致シタル時ハ三年ヨリ短カラ
サル時間ノ徒刑或ハ三年ヨリ短カラサル禁
獄ニ処ス可シ

第二百二十七條 多衆ニテ人ヲ殴打シ又ハ襲
撃シ死ニ致シ又ハ重傷ヲ爲シタル時其殴打
襲撃ニ組シタル者ハ止夕其組シタルノ一事
ヲ以テ皆三年ヨリ長カラサル禁獄ニ処ス但
シ本人ノ過誤ナクシテ害ヲ被ムリタル時ニ
限ル可シ

止夕一傷ニ非ラスシテ數傷ヲ以テ死ニ致シ
又ハ重傷ヲ爲シタル時其創傷毆撃ヲ各時ニ
成シタルト見做サル、者ハ皆五年ヨリ長カ
ラサル徒刑ニ処ス可シ

第二百二十八條 若シ酌量輕減アルハ第ニ
百二十四條及ヒ第ニ百二十七條ノ第ニ項ノ
場合ニ於テハ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ処
シ第ニ百二十六條ノ場合ニ於テハ三月ヨリ
短カラサル禁獄ニ処ス可シ
若シ尊屬ノ親ニ對シ此ノ暴行ヲ爲シタル時
ハ其刑ヲ輕減スルヲ得ス

第二百二十九條 人ノ健康ヲ害セントスルノ
目的ニテ毒藥又ハ其健康ヲ害セントスルニ

適當ナル物品ヲ用ヒタル者ハ十年ヨリ長カ
ラサル徒刑ニ処ス可シ若シ之レニ因テ重傷
ヲナシタル時ハ少クモ五年間徒刑ニ処シ若
シ之レニ因テ死ニ致シタル時ハ十年ヨリ短
カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ処ス可シ
第二百三十一條 何レノ場合ヲ論セス傷ヲナ
シタル時ハ本刑ノ外裁判所ニ於テ其傷害ヲ
被ムリタル者ノ求メニヨリ其者ノ爲メニ二
千^一タ^一レ^ルニ至ル償金ヲ命スル^一ヲ得可シ
此ノ場合ニ於テハ傷害ヲ被ムリタル者其餘
ノ償金ヲ取ル^一ヲ得ス
其償金ヲ出スハク命セラレタル者多衆ナレ
ハ皆連帶ス可シ

第二百三十二條 故ラニ輕傷ヲナシ並ニ虞忽
懈怠ニヨリテ傷ヲ爲シタル者ハ其訴ヲ待ツ
テ罪ヲ論ス可シ(第百二十三條第百三十
條)若シ其犯人職務職業又ハ工業ニヨリ特ニ
注意スヘキ義務アル^一片ハ此例ニ非ラス
第百九十五條第百九十六條及ヒ第百九十八
條ノ條々ヲ此條ニ記載シタル場合ニモ亦通
シテ用ユル^一ヲ得可シ

第二百三十三條 甲乙ノ兩人共ニ輕キ暴行^暴
ニ輕^二重^一ヲノ大^二小^一ノ暴行ヲテ輕^二重^一ナリニ
ヲ爲シ又ハ
甲乙ヨリ受ケタル不敬ヲ輕キ暴行ヲ以テ報
復シ又ハ乙甲ヨリ受ケタル輕キ暴行ヲ不敬
ヲ以テ報復シタル時ハ裁判官ニテ其犯者兩

名共又ハ止タ其一人ヲ本刑ヨリ下等ノ刑ニ
処シ又ハ兩名共放免スルヲ得可シ

第二百二十一條 幼者又ハ篤疾廢疾ニテ自ラ
營養スルヲ能ハサル人ヲ放逐シ或ハ其人ヲ
啜管シ又ハ轉住ニ病院或ハ貧院等セシムルノ
任ヲ受ケ又ハ己レノ宅或ハ他人ノ宅ニテ住
居ヲ給與スヘキ任ヲ受ケタル者故ラニ救助
ヲ加ヘス見棄テ放置シタル者ハ三月ヨリ短
カラサル禁獄ニ処ス可シ若シ父母其子ヲ放
置シタル時ハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ処
ス可シ

若シ放逐及ヒ放置シタルヲヨリシテ其者ニ
大害ヲ爲シタル時ハ十年ヨリ長カラサル徒
刑因テ死ニ致シタル時ハ三年ヨリ短カラサ
ル徒刑ニ処ス可シ

第三百二十四條 故ラニ他人ノ用水トナリタ
ル水潘井又ハ公然ト賣高スヘキ各種ノ物品
又ハ公ケノ命用物品ニ毒シタル者又ハ之レ
ニ人ノ健康ヲ害スル物品ヲ混合シタル者又
其毒物及ヒ健康ヲ害スル物ヲ混合シタルヲ
知リテ其事ヲ買主ニ告知スルヲナク故ラニ
之レヲ販賣シ又ハ之レヲ賣物トナシ發行シ
タルモノハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ処シ
因テ人ヲ死ニ致シタルハ十年ヨリ短カラ
サル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ処ス可シ

第三百二十五條 三百六條ヨリ三百八條三百

十一條ヨリ三百十三條及ヒ三百十五條三百二十一條ヨリ三百二十四條ニ至ル條ニ記シタル者ハ徒刑ノ外仍ホ政府ノ監察ニ付ス可シ

第三百二十六條 三百二十一條ヨリ三百二十四條ニ至ル條ニ記例シタル罪ヲ虞忽懈怠ニヨリテ犯シ因テ損害ヲ生シタルキハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ処シ人ヲ死ニ致シタル片ハ三年ヨリ長カラサル禁獄ニ処ス可シ

○白身義

第三百九十二條 凡構意殺傷セント要シ人ヲ殺傷スル者ハ其殺傷スル所習中預定ノ人ナルト否トラ論セス又他ノ情状事故アルト其誤殺傷ナルトヲ論セス總テ構意殺傷ヲ以テ論ス可シ

第三百九十八條 凡構意ヲ以テ毆傷スル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ処シ二十六「ラ」ニクヨリ一「百」「ラ」ニクマテノ罰金ヲ命ス可シ若クハ唯此一刑ノミヲ科ス可シ

其謀毆傷ニ属スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ処シ五「十」「ラ」ニクヨリ二「百」「ラ」ニクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百九十九條 凡毆傷ニ因テ疾病若クハ動作ヲ害スルニ致ス者ハ二月ヨリ二年マテノ獄ニ処シ五「十」「ラ」ニクヨリ二「百」「ラ」ニクマ

テノ罰金ヲ命ス可シ

其謀毆傷ニ属スル者ハ六月ヨリ三年マテノ
獄ニ処シ一百「フラン」クヨリ五百「フラン」クマ
テノ罰金ヲ命ス可シ

第四百條 凡毆傷シ因テ命ニ関スル篤疾若ク
ハ終身癱疾若クハ身体ノ一部ヲ損ハシメ若
クハ支體ヲ折傷スル者ハ二年ヨリ五年マテ
ノ獄ニ処シ二百「フラン」クヨリ五百「フラン」ク
マテノ罰金ヲ命ス可シ

其謀毆傷ニ属スル者ハ監役ニ処ス可ス

第四百一條 凡殺サント欲スルニ非スレテ毆
傷シ因テ死ニ致ス者ハ監役ニ処ス可シ

其謀毆傷シ因テ死ニ致ス者ハ十年ヨリ十五
年マテノ懲役ニ処ス可シ

第四百二條 凡殺サント欲スルニ非サル構意
毒殺ス可キ物質若クハ死ニ至ラサルモ篤疾
ヲ起ス可キ物質ヲ與ハ因テ疾病若クハ大ニ
健康ヲ害スルニ致ス者ハ三月ヨリ五年マテ
ノ獄ニ処シ五十「フラン」クヨリ五百「フラン」ク
マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三條 凡其物質命ニ関スルノ疾若クハ
終身癱疾ノ原由トナリ若クハ身体ノ一部ヲ
失ハシムルニ致ス者ハ監役ニ処ス可シ

第四百四條 凡殺サント欲セス前條ノ物質ヲ
與ハ因テ死ニ致ス者ハ十年ヨリ二十年マ
テノ懲役ニ処ス可シ

第四百五條 凡殺サント欲セス第百二條ノ
物質ヲ試ムル者ハ一月ヨリ三年マテノ獄ニ
処シニ十六^ノフランクヨリ三百^ノフランクマテ
ノ罰金ヲ命ス可シ

第四百六條 凡構意ヲ以テ鐵路ヲ壞リ或ハ鐵
線ヲ絶チ或ハ線上ニ障碍物ヲ置ク等及ヒ其
他ノ方略ヲ用テ蒸氣車ヲ止メ若クハ覆ヘス
者ハ監役ニ処ス可シ

第四百七條 凡前條ノ犯罪ニ因テ人ヲ第百
九十九條ノ折傷ニ致ス者ハ十年ヨリ十五年
マテノ懲役ニ処ス可ク若第百條ノ折傷ニ
致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ処
ス可シ

凡故ラニ蒸氣車ノ鐵路ニ向テ木石等ヲ投チ若
クハ横ヘ或ハ鐵路枕木等ヲ轉移シ若クハ表
標報燈等ヲ轉動シ或ハ蒸氣車内若クハ器械
ニ木石等ヲ投擲チ因テ^{旅客人ヲ}困危^シセシメシ
ト欲スル者ハ並ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身
ニ至ル徒罪ニ処シ或ハ二年ニ過キサル入獄
ニ処シ若クハ苦役ヲ加フ
若シ故ラニ應干ノ事務ヲ怠慢シ因テ旅客人ヲ
困危セシムル者ハ自ラ之ヲ爲シ及ヒ人ヲシ
テ爲サシメ若クハ之ヲ助カスルヲ問ハス並
ニ輕罪ニ坐シ二年ニ至ル入獄ニ処シ若クハ
苦役ヲ加フ向鐵路投木石
凡人ヲ殺傷スルニ足ル^{機發スル}弓銃等ヲ自己

ノ田園ニ設置シ因テ人ノ濫入スルヲ傷害セ
ント欲スル者ハ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪ニ処
シ或ハ二年ニ至ル入獄ニ処シ若クハ苦役ヲ
加フ若シ人ヲシテ設置セシムル者ト雖モ罪
亦同

其夜家内ニ設置シ因テ盜賊ノ防禦ヲ爲サシ
ト欲スル者ハ此限ニアラス設置機發ヲ銃
九二人以上共ニ鬪毆シ因テ旁人ヲ恐怖セシム
ル者ハ輕罪ニ坐シ其事情ノ輕重ニ依テ増減
シ贖罪及ヒ入獄ニ処断ス

若シ他人ノ爲メニ媒酌シテ之ヲ和解セント
シ因テ事害ヲ生スト雖モ其罪ヲ免ス

其私家ニ於テ鬪毆シテ衆人ヲ驚怖セサル者
ハ此律ニアラス

若シ二人預メ鬪毆ヲ爲サシト期シ後之ヲ行
フ者ハ自ラ人ヲ殺サシト欲スルノ意アルニ
似タリ因テ鬪毆ノ最モ大ナル者ト爲シ重罪
ニ坐ス鬪毆恐怖旁人

九二人以上共ニ同ク他人ヲ毆キ或ハ徒黨ヲ企
テシト謀リ其一人因テ人ヲ殺ス者ハ謀殺ヲ
以テ論シ餘人皆其罪ニ同クス共謀毆人致死

九廢篤疾若クハ拒防等ヲ謀ルナクシテ止タ
人ヲ傷残スル者ハ兇器ノ有無ニ拘ハラズ輕
罪ニ坐シ五年ノ徒役ニ処シ或ハ二年ニ過キ
サル入獄ニ処シ若クハ苦役ヲ加フ傷殘人

九火藥破裂物等ヲ用テ人ノ居住スル房屋ニ於

テ發裂セシメ因テ人ヲ損害シ其生命ヲ危險
ナラシムル者ハ重罪ニ坐シ終身ノ徒罪ニ処
ス如シ止夕房屋ヲ損害セント欲シ火藥ヲ置
キ未夕發セサル者ハ十四年ニ及フ徒罪ニ処
断ス發火藥損害人

凡闘毆殺ヲ犯ス者ノ処刑ハ判事ノ適當トスル
所ニ依テ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ処シ或
ハ二年ニ過キサル所ノ入獄ニ処シ情ニ依リ
苦役ヲ加ヘ若クハ止夕贖罪ニ処シ或ハ贖罪
ヲ本刑ニ加ヘテ処断ス闘毆殺処刑

凡二人共ニ闘毆スルニ傍人アリ爲メニ和解セ
ントシ説諭スルヲ用ヒス却テ之レヲ毆テ死
ニ致ス者ハ謀殺ヲ以テ論ス毆殺傍人爲和解
者

○プロイセン (肝八四五ノ十刑法四)

第百八十七條 凡ソ故意ヨリ出テ他人ヲ打毆
スル者或ハ他人ニ對シ此他ノ暴行ヲ加ヘ又
ハ支体ノ折傷ヲ加ル者ハ二年ヨリ多カラサ
ル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ
若シ輕犯ノ景况判然發顯セシラ確定シ得
タル片ハ三百「タ」ルヨリ多カラサル罰金
ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十條 凡ソ故意ノ身体折傷熟慮ヨリ出
テ之ヲ行ヒタルニ於テハ三年ヨリ多カラサ
ル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十二條

第百九十二條 九ツ故意ノ身体折傷ニ因テ被害者ノ健康或ハ四肢ニ至重ノ傷害ヲ起シ或ハ曠日経久職業廢頓ノ害ヲ加エタルキハ六ケ月ヨリ少カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十三條 九ツ故意ノ身体折傷ニ因テ被害者不具トナリ即チ言語視力聴力生化カラ奪却セラレ或ハ精神病ヲ發シタルキニ於テハ十五年以下ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百九十四條 九ツ故意ノ身体折傷ニ因テ被害者ヲ死ニ致シタルキハ十年ヨリ以上二十年ヨリ以下ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百八十八條 九因テ人ヲ死ニ致ス者ハ終身懲役ニ処ス可シ

第百九十九條 九第三百九十九條及四百一條ノ犯罪獄ニ諛ル者ハ猶五年ヨリ十年マテノ警察ニ処スルコトアリ

第四百十條 九第三百九十八條ヨリ第四百五條ニ至ル犯罪若シ其父母庶父母養父母或ハ其他尊族ノ嫡親ニ於ケル者ハ第二百六十六條ニ從ヒ加等ス

第四百五十四條 九賣品飲食料ニ人ヲ殺ス可キ物質或ハ人ノ篤疾ヲ起ス可キ物質ヲ調和スル者及ヒ調和セシムル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ処シ二百「ラ」ニクヨリ二千「ラ」

シクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百五十五條 凡左ノ犯罪ハ罪前條ニ同シ
前條載ル毒物ヲ調和セル飲食料ヲ知テ之ヲ
賣ル者之ヲ舖ニ展肆スル者飲食料ヲ變質ノ
用ニ充スヲ知リ毒質ノ物品ヲ賣ル者

第四百五十六條 凡賣品飲食料ノ毒質ヲ含メ
ル物タルヲ知テ之ヲ舖店倉庫ニ貯フル者ハ
三月ヨリ三年マテノ獄ニ処シ一百フランク
ヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百五十七條 凡變質飲食料ハ之ヲ没入シ
減去ス可シ

其商價免狀ハ之ヲ取り上ケ受刑 在獄 中ハ再
ヒ之ヲ與フ可カラス

尚ホ第三十三條ノ奪権ヲ科スルヲアルヘシ
裁判所ノ命ニ依テ其罪案ヲ裁判所ノ欲スル
場所ニ揭示セシメ又其全文若クハ概畧ヲ裁
判所ノ欲スル新聞紙ニ載セシム但シ揭示及
新聞紙記載ノ費ハ皆犯人ニ之ヲ科ス可シ

第三百十六條 凡國法及規則ニ禁スル所ノ兵
器ヲ製作シ或ハ賣リ或ハ舖ニ展示シ或ハ分
派スル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ処ス可
シ

第三百十七條 凡製禁兵器ヲ所持スル者ハ二
十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰金
ヲ命ス可シ

第三百十八條 凡以上二條ノ犯罪ニ於テハ其

兵器ヲ没入ス可シ

○埃及

第二百十五條 何人ニ限ラス人ヲ創傷毆撃シ
之カ爲メ療治ノ爲メ切斷ヲ受ケシメ又ハ四
肢ヲ用フル能ハサルニ至ラシメシ者ハ三年
間ノ徒刑ニ処セラル可シ○預メ人ニ害ヲ加
ヘント謀リタル確証アル時ハ其刑期ヲ増シ
テ十年ト爲スヲ得可シ

第二百十六條 人ヲ創傷毆撃シ之カ爲メ病ニ
罹ラシメ又ハ二十日以上勞動スル能ハサル
ニ至ラシメシ者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨ
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ
若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リタル確証ア
ル時ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百十七條 又其創傷毆撃ノ前二條ニ記ス
ルカ如ク重劇ナラサル時ハ其犯人ヲ一週ヨ
リ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮
ノ刑ニ処ス可シ○若シ預メ人ニ害ヲ加ヘン
ト謀リタル確証アル時ハ一月ヨリ少ナカラ
ス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処ス
可シ

第二百十九條 人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ノ罪ヲ
犯スト共ニ官命ニ抗シ又ハ掠奪ヲ爲スノ罪
ヲ犯セシ時ハ此等ノ犯罪ノ本人ヲ法律ニ循

七刑ニ処ス可キノミナラス其煽動者及ヒ挑
唆者モ亦其犯罪本人ト同一ノ刑ニ処ス可シ
第二百二十一條 強制ノカアル者ノ指揮ニ從
ヒ人ヲ創傷毆撃セシ者アル時ハ其指揮ヲ為
シタル者前數條ニ記セシ犯罪輕重ノ差別ニ
從ヒ其相當ノ刑ニ処セラル可シ又其指揮ヲ
爲セシ者ニ強制ノカアラサル時ハ其創傷又
ハ毆撃ノ罪ヲ犯セシ本人其相當ノ刑ニ処セ
ラレ其指揮ヲ爲シタル者ハ一週ヨリ少十カ
ラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処
セラル可シ

然レ凡人ヲ指揮シ創傷毆撃ノ罪ヲ犯サシメ
其害ヲ被リシ者之レニ因リ療治ノ爲メ切斷
ヲ受ケ又ハ其四肢ヲ用フル能ハサルニ至リ
シ時ハ其指揮ヲ爲セシ者如何ナル場合ニ於
テモ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二百二十七條 此一章中ニ記シタル如何ナ
ル場合ニ於テモ「セリ」ノ法律ヲ以テ裁判ヲ
受ク可キ各人ニ就テハ殺害及ヒ創傷毆撃ノ
罪ヲ其法律ニ循テ裁定ス可ク又損害ノ償ハ
通常法律ニ定ムル規則ニ循テ之ヲ爲サシム
可シ

第二百三十三條 何人ニ限ラス人ヲ殺ス可キ
質ナシト雖モ人ヲシテ病ニ罹ラシメ又ハ一
時勞動スル能ハサルニ至ラシム可キ物品ヲ
故ラニ人ニ附與セシ者ハ一月ヨリ少十カラ

ス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百三十四條 何人ニ限ラス免許状ヲ得ス製藥店ヲ開キシ者ハ埃及ノ貨幣十「リ」ブルヨリ少ナカラス五十「リ」ブルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百三十五條 何人ニ限ラス人ノ健康ヲ害スル混合物ノ入りシ偽造ノ飲料ヲ賣リ又ハ買主ヲシテ規則ニ定メシ保証ヲ爲サシムル「ナク」毒藥ヲ賣リタル者ハ一週ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ埃及ノ貨幣一「リ」ブルヨリ少ナカラス二十五「リ」ブルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サレ並ニ右ノ物品ヲ徵収セラル可シ
○犯人ノ所有シ又ハ其住所ニ在ル偽造ノ飲料ハ之ヲ徵収シテ滅却ス可シ

○英吉利

凡故ヲニ卒然ト人ヲ毆打スル者ハ折傷セスト雖モ輕罪ニ坐シ一年ニ止ル入獄ニ処シ若クハ苦役ヲ加フ
若シ損害スル者ハ五年ノ徒罪或ハ二年ニ至ル入獄ニ処シ若クハ苦役ヲ加フ或ハ訴訟裁判所ニ於テ償金ヲ附與セシム
若シ裁判官ヲ廳内ニ於テ襲毆シ或ハ破船ニ遇フ所ノ器物等海濱ニ漂流シ到リ吏役ノ之

ヲ守衛スルヲ毆撃スル者ハ並ニ輕罪ニ坐シ
判事ノ適意ニ依テ七年ニ至ル徒罪ニ処シ或
ハ二年ニ至ル入獄ニ処断ス

若シ人ヲ侵撃シ因テ重罪ニ該ル罪ヲ犯サン
ト欲シ或ハ捕吏ノ已レヲ捕獲セントスルヲ
抵抗セン爲メニ之ヲ侵撃シ或ハ諸工商人等

ノ衆徒ヲ糾連シテ雇工賃錢若クハ物價ヲ上
直ニセシムラ希圖シ餘人ノ同意セサル者ヲ
侵撃スル者ハ並ニ輕罪ニ坐シ二年ノ入獄ニ

処シ若クハ苦役ヲ加フ
若シ猥褻ノ所行ヲ以テ卒然ト婦人ヲ侵ス者
モ罪亦同シ

若シ人ヲ毆撃スルト雖モ其情状尤モ輕キ者
ハ即日治安裁判所ニ於テ五封度ニ至ル贖金
ヲ出サシメ或ハ二月ニ止ル入獄ニ処シ若ク

ハ苦役ヲ加フ故毆人
凡事卒然ト發リ互ニ鬪毆シ一時ノ忿激ニ堪ヘ
ス因テ人ヲ死ニ致ス者ハ有心鬪毆殺トナシ

重罪及ヒ鬪毆殺ノ罪ニ坐ス如シ即時ニ非ラ
ス怒氣過タルノ後殺ス者ハ仍ホ謀殺罪ヲ以
テ論ス

若シ本夫姦夫ヲ姦所ニ殺ス者モ固ヨリ一時
ノ忿怒ニ出レハ仍ホ鬪毆殺ヲ以テ論ス
其強姦ヲ殺ス者ハ論スルト勿レ有心鬪毆殺

凡卒然ノ忿激ニ出ルト雖モ匪法酷暴ニ事ヲ行
ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ預メ殺サント謀ラ

スト雖モ其心己ニ極惡ナレハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス假令ハ家長奴婢ノ法ニ違ヒ因テ決罰スルニ鐵杖ヲ把テ毆撃シ或ハ師匠ノ弟子ヲ決罰スルニ胸腹ヲ踏踏シ因テ死ニ致ス如キヲ謂フ 匪法行事殺人

九保辜限内ハ其罪犯人ヲ殘傷セシムル日ヨリ通計シ一年一日即チ三百六十六日ヲ以テ期限ト爲シ如シ限内ニ於テ死ニ至ル者ハ其殺罪ニ坐ス 保辜限内

九捕吏ノ己レヲ追奪スルヲ聞知シテ之レヲ拒防シ因テ死ニ致ス者ハ謀殺ヲ以テ論ス若シ捕吏ノ之レヲ追捕スルニ法ニ依ラス或ハ行用スヘカラサル印票ヲ以テ之レヲ追捕セント爲シ因テ拒防シテ死ニ致ス者ハ鬪毆殺ヲ以テ論ス 拒殺捕吏

九人ヲ癡疾篤疾ニ爲サント謀リ或ハ捕吏ノ掣獲ヲ拒防セントヲ謀リ因テ人ヲ殘傷シ若クハ發砲スルモノモ重罪ニ坐シ罪前條ニ同シ 謀癡篤疾人

九故ラニ火藥破裂物等ヲ破裂セシメ人ヲ燬傷シ及ヒ癡篤疾ニ至ラシムル者ハ重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者ニ依テ論シ且ツ打背罪ヲ加フ年十六以下ノ者犯スト雖モ判事ノ適意ニ依テ仍ホ本刑ヲ加フ

若シ情ヲ知テ爲メニ火藥破裂物等ヲ製造シ或ハ送與シ若クハ熱灰等ヲ以テ人ニ投擲シ

因テ人ヲ燬傷ニ及ヒ癆篤疾ニ爲サント謀ル者ハ人ヲ傷スルト傷セサルトヲ問ハス罪亦同ニ火藥燬傷人

凡人ノ房屋及ヒ船隻等ニ火藥ヲ置キ因テ人ヲ殘傷セント欲スル者ハ人ノ傷否及ヒ火藥ノ發否トヲ問ハス十四年ニ及フ徒罪ニ処ス餘上條ニ同ニ置火藥于人房屋及船隻

凡凶藥ヲ以テ人ヲ迷死セシメ因テ事ヲ行ハント謀ル者ハ其自ラ之レヲ與ヘ及ヒ人ヲシテ與ヘシメ或ハ己ニ與ヘ及ヒ未タ與ヘサルトヲ問ハス重罪ニ坐シ謀殺人罪状明白者ヲ以テ論ニ仍ホ判事ノ適意ニ依テ打背罪ヲ加フ凶藥迷死人

○「サツキセシ」 (千八百六十八年十一月十日改正ノ刑法十)

第百六十七條 身体折傷ノ刑

凡ソ故意ニ由テ爲シタル身体折傷ハ左ノ如ク処セララル可シ

第一款 故意ノ折傷ニ因テ被害者ノ言語視力聴力或ハ生化力ヲ奪却シ或ハ其職業ノ作用ヲ妨害シタル片ハ一年ヨリ以上六年ヨリ以下ノ徒刑ニ処セララル可シ

第二款 被害者ニ對シ前款ノ外ナル健康ノ損害ニシテ復々療理ス可ラサルモノヲ加ヘタル片或ハ其所爲ニ因テ不具ト爲シ或ハ衆目ニ觸レ易キノ不具ヲ致スニ於テハ

四年以内ノ徒刑ニ処セラル可シ

茅三款 前款ヨリモ較々輕キ場合ニ於テハ
一年以内ノ禁獄ニ処セラル可シ若シ擬決
セラレシ呀ノ禁獄三ヶ月ヨリ多カラサル
片ニ於テハ之ニ代ルニ三百タレ以下
ノ罰金ヲ科セラル可シ

第百六十八條 精神カヲ錯亂シ及ヒ其開進ヲ
妨害スル

凡ソ某人ノ精神カヲ錯亂シ或ハ人民ノ獨立
ニ必須ナル精神カノ開進ヲ妨害スル者亦タ
身体折傷トシテ注意ス可シ就中此妨害ノ復
収ス可ラサルモノハ茅百六十七條中茅一款
ニ論シタル身体折傷ト同視ス可シ但シ其妨
害復収ス可キノ目的判然著明ナルモノハ茅
百六十七條中ノ茅二款ニ論シタル身体折傷
ト同視ス可キナリ

第百六十九條 特別ノ制定

凡ソ害者ノ目的タル確然茅百六十七條中ノ
茅一款及ヒ茅二款又ハ茅百六十八條中ニ論
シタル傷害(最重傷)ヲ爲スニ在リテ其目的
ヲ熟成シタルニ於テハ四年以上二十年以下
ノ徒刑ニ処セラル可シ

凡ソ害者ノ目的ハ必ス傷害ヲ加ヘント欲ス
ルニハ非レモ危險ノ兇器ヲ持シ若クハ容易
ニ危險ノ傷害ヲ醸ス可キ特種ノ準備ヲ爲シ
タル場合ニ於テ其裁判已ニ茅百六十七條中

第百七十一條 身体折傷致死
依テ処刑ヲ施ス可キハ同條第一款ニ
依テ処刑ヲ施ス可キ若シ其輕キ身体折傷(第六十七條中)ニ在テハ二年以下ノ徒刑ニ處セ
ラル可シ或ハ全ク折傷ヲ致サ、ルハニ於テ
モ亦同シ

第百七十條 身体折傷致死
凡故意ヲ以テ加ヘタル身体折傷ニ因テ被害
者ノ死ヲ致シタルハ其害者ハ之ヲ死ニ致ス
ノ故意アルニ非ルヨリ若シ第百六十九條ニ
準ヒ重刑ニ處ス可ラサル者ナルハ一年ヨ
リ以上十年ヨリ以下ノ徒刑ニ處セラル可シ

○ハッセン (肝八七四ノ十刑一第九)

第百六十二條 凡ソ法律ヲ犯シ故意ヲ以テ
某人ノ身体或ハ其健康ヲ傷害シ而メ之ヲ殺
スノ目的ニ出テサル者ハ左ノ刑ニ處セラ
ル可シ

第一款 被害者身体及ヒ健康ニ其害ヲ受ケ
因テ絶命ニ至リタルハ或ハ必然平愈セス
若クハ殆ント平愈ス可ラサル病患及ヒ精
神錯亂等ノ害ヲ加ヘシハ五年以上十五
年以下ノ徒刑ニ處セララル可シ

第二款 若シ被害者五感手足言語或ハ生化
カラ害セラレ即チ体用ノ本然ヲ失シ不具
ト為リタルハ一年ヨリ少カラス三年ヨ
リ多カラサル懲治監或ハ十年ヨリ多カラ

サル徒刑ニ処セラル可シ

第三款 被害者前款ニ載セシ所ノ外身体ノ一部ヲ不具ト為サレ或ハ身体折傷ニ因テ終身ニハ非レモ經久荏苒タル病患或ハ職業廢頓ノ妨害ヲ被リタルキハ三年ヨリ多カラサル懲治監或ハ五年ヨリ多カラサル徒刑ニ処セラル可シ

第四款 至輕ノ身体折傷ヲ加ヘ因テ釀セシ所ノ病患及ヒ職業廢頓ノ時間極メテ短少ナルキハ十四日以上ノ禁獄ニ処セラル可シ

凡ソ數人同盟合從シ或ハ謀計ヲ施シ或ハ兇器ヲ以テ身体折傷ヲ為スノ罪ヲ犯シタル者ハ重罪犯ト見做ス可シ

第二百六十三條 凡ソ身体折傷一朝ノ過激ニ出テ素ヨリ熟慮セシニ非ル者ハ左ノ刑ニ処ス可シ

第一款 第六十二條ノ第一款第二款及ヒ其他ノ場合ニ照準ス可シ

第六十四條 然レモ更ニ何等ノ原因モ十ク亦タ確然實的ナル原因モ十クシテ被害者凌辱ノ所行或ハ其他失敬ヲ加ルノ姿様ヲ為スニ因テ被害者若クハ其親交(第三十九條中ニ列載セシ者)ノ憤激ヲ釀發セシメシニ原クキハ第六十三條ニ於テ決シタル刑ニ代ルニ次ノ刑ヲ以テス可シ其他ハ之ヲ畧ス

第二百六十五條 凡ソ第百六十二條第百六十三條及ヒ第百六十四條等ノ犯罪ヲ処決スルニ當リ酌量輕減ス可キノ罪犯トメ注意スヘキモノハ若シ罪犯呀行ノ目的タル實際上ニ發顯シタル成績ヨリモ輕キモノニ於ケルキ且其成績ハ犯シタル所行ノ本旨ヨリ出テシ者ニ非ルヲ認定ス可クアリシ片ニ在リ

○千ユーリンギシエスターテシ (八千)

第百四十一條

第百三十一條 凡ソ某人ニ對シ故意(九條二十)ヲ以テ其身体ニ折傷ヲ加ヘタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

第一款 若シ故意確然被害者ニ對シ其言語視力聽力又ハ生化カラ奪却スルノ目的ニ原キ或ハ衆目ニ觸レ易キノ不具為ラシムルノ目的ニ原キ或ハ精神病人為ラシムルノ目的ニ原キ而メ此等ノ目的ヲ實際ニ果シ得タル者ハ四年以上二十年以下ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二款 若シ故意確乎タル目的ニ原ク所無ク而メ被害者人ニ對シ其言語聽力視力又ハ生化カラ奪却シ或ハ療理スヘカラサル精神病者ト為シ或ハ終身職業廢頓ノ人ト

タル者ハ二年ヨリ以上六年ヨリ以下ノ徒
刑ニ処セラル可シ

茅三款 若シ故意確乎タル目的アルニ非ス
シテ被害者ニ對シ茅二款ニ陳セシ所ノ外
衆目ニ觸レ易キノ不具ト為シ或ハ至難十
レモ療理ス可キ精神病者ト為シ或ハ傷害
ニ因テ全ク平愈ス可ラサル創痕ヲ残サシ
メタル者ハ一年ヨリ以上四年ヨリ以下ノ
徒刑ニ処セラル可シ

茅四款 若シ折傷ニ因テ一時病患ヲ誘起シ
タル片又仮令此病患ノ成蹟十クモ若シ實
ニ成蹟ヲ現ス片ハ重罪ヲ処決セラル可キ
一大至害ノ危険ヲ加ヘ或ハ數人同盟合從
シテ折傷ヲ加ヘ或ハ計策ヲ以テ之ヲ為シ
タル片ハ六週間以外六ヶ月以内ノ禁獄ニ
処セラル可シ

茅五款 若シ上款茅一ヨリ茅四ニ至ルノ中
ニ就テ犯シタル罪科ノ實況判然發露セシ
ニ非ル者ハ禁獄ノ刑ニ処セラル可シ而メ
其刑六週間ヨリ長キ期限ニ至ラサル者ニ
在テハ之ニ相應スヘキ罰金ヲ科セラル可
シ

凡ソ身体折傷ノ經久平愈セサリシ片或ハ身
体ノ痛苦ヲ擡起セシ片若シ其罪犯上ニ論シ
タル制定ニ照準シテ較々輕ク処決セラル可
キ場合ニ於テハ其害者ハ二年ヨリ多カラサ

ル禁獄若クハ徒刑ニ処セラル可シ

○バエールン(千八百六十一年刑法)

第二百三十四條 凡ソ某人ヲ殺スノ目的ヨリ出ルニハ非レモ預シメ熟慮決意ニ以テ其身体折傷或ハ其健康傷害ヲ爲スノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ如ク處決セララル可シ

第一款 身体折傷若クハ健康傷害ニ因テ被害者死ニ至リ又ハ其身体及ヒ健康ニ終身不治ノ傷害ヲ受ケタル片或ハ六週間以上愈治セサル病患(全体又ハ部分)又ハ職業廢頓ノ害ニ罹リタル片ハ六年以内ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二款 身体折傷若クハ健康傷害ニ因テ被害者五日間以上乃至六十日間以下依然愈治セサル病患或ハ職業廢頓ノ害ニ罹リタル片ハ四ヶ月ヨリ少カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ

第三款 必シモ前款ニ掲ケタル所ノ成績ヲ發顯セシニ非スト雖モ或ハ二人若クハ數人ノ同盟合從ニ依リ或ハ夜ニ乘テ突襲スルニ依リ或ハ兵器及ヒ毒物ヲ施用スルニ依ルノ所行ニ涉リタル片ハ二年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ
凡ソ身体折傷ノ已ニ着手シテ未全成ノ者若シ其所行兵器或ハ毒物ヲ施用セシニ涉リタ

ル片ハ前款茅三ニ照準シテ其罪ヲ処決ス可シ

第二百三十五條 若シ身体折傷或ハ健康傷害ノ豫シメ熱圖セル決意ニ出テ之ヲ爲シタルノ所行ニ涉ラサル者茅二百三十四條茅一款ノ場合ニ於テハ八年以下ノ徒刑ニ処セラレ其較ヤ輕キ場合ニ於テハ二年以上ノ禁獄ニ処セラレ可シ又茅二百三十四條茅二款ノ場合ニ於テハ四年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セラレ或ハ五百ギユルデンヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

第二百三十七條 九ツ茅二百三十四條ノ茅一款及ヒ茅二款ニ論シタル成績ノ發生ス可ラ

サル身體折傷或ハ健康傷害ヲ某人ニ加フルノ罪ヲ犯ス者若シ茅二百三十四條茅三款ノ場合ニ照準シテ之ヨリ重キ罪ヲ犯セシニ非ル片ハ禁錮ノ刑或ハ百五十ギユルデンヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ又其重キ罪犯ナル場合ニ於テハ禁錮ノ刑ヲ嚴肅ニシ之ニ加ルニ罰金ヲ以テ科スルヲ得可シ
若シ身体折傷或ハ健康傷害ヲ加フルノ罪ヲ犯シ其ノ上系親屬ニ関スル者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ
此諸條中ニ掲ケタル場合ニ於テ若シ罪犯所行ノ闘毆(茅二百四)或ハ再犯(茅二百四)ニ非ル者ハ被害者若クハ法律上其代理ヲ爲ス可キ

人ノ呈訴ヲ待テ乃チ其罪ノ処断ヲ行フ可シ

○ラースタリヤ (七年ノ百六十一)

凡ソ某人ヲ殺サント欲スルノ目的確然タルニ
ハ非レモ故意ヲ以テ其身体折傷或ハ健康傷
害ヲ加フルノ所行ヲ爲ス者ハ死傷ノ重罪犯
ナリトス

若シ此重罪ニ在テ害者ノ故意一時ハ憤激ニ
出テ不意ニ身体折傷或ハ健康傷害ヲ爲シ而
メ直ニ其所行ヲ果シタルモハ処スルニ禁獄
ノ刑ヲ以テス可シ但シ此場合ノ外若シ同般
ノ所行ニシテ其鬪毆(博九條百三)ニ涉リシモハ
規則上四年乃至八年間ノ徒刑ニ処シ若シ其
所行上系或ハ下系ノ親屬若クハ夫若クハ婦
ニ涉リシモハ八年乃至十二年間ノ徒刑ニ処
ス可シ

第二百三十三條 凡ソ故意ヲ以テ身体折傷或
ハ健康傷害ヲ某人ニ加ヘタル者若シ身体折
傷或ハ健康傷害ノ最モ重劇ナルモノヲ發生
シタルモハ之ヲ重罪犯ト爲シ其他ハ之ヲ輕
罪犯ト爲ス

第二百三十四條 凡ソ身体折傷或ハ健康傷害
ノ重罪犯ト見做ス可キモノハ左ノ如シ
第一款 被害者其所行ニ因テ音聲言語視覺
聽覺及ヒ生化ノ機具ヲ失敗シ若クハ不治
ノ毀傷ヲ被リ或ハ手足ノ損傷ニシテ若ク

ハ不可用若クハ衆目ニ觸レ易キ不具ヲ受ケタル片

茅二款 不治ノ身体或ハ苦痛或ハ經久ノ際精神傷害ヲ受ケタル片

茅三款 被害者終身職業廢頓ノ損害ヲ受ケタル片

第二百三十五條 凡ソ故意身体折傷ノ重罪犯ニシテ若シ被害者其所業ヲ爲サント欲スルノ故意一時ノ激怒ニ出テ、之ヲ行ヒ而メ直ニ其行ヲ果シタル片ハ禁獄ノ刑ニ処セラレ此他若シ闘毆(茅九百三)ニ依テ其罪ヲ犯シタル片ニ於テハ徒刑ニ処セララル可シ其期限即チ左ノ如シ

茅一款 規則上ニ於テハ四ヶ月ヨリ少カラズ一年ヨリ多カラサル可シ

茅二款 若シ左ノ罪犯ニ涉リタル片ハ一年ヨリ少カラズ四年ヨリ多カラサル可シ

甲 若シ重罪犯ノ上系若クハ下系親屬或ハ夫又ハ婦ニ涉リタル片

乙 若シ被害者重劇ナル身体折傷若クハ健康傷害ヲ爲サント欲スルノ目的ヲ以テシタル片

丙 若シ茅二百三十四條中ノ最モ重キ傷ヲ加ヘタル片

茅三款 若シ乙丙中ニ論シタル景況ノ二箇同時ニ合發シタル片ハ四年ヨリ少カラズ

八年ヨリ多カラサル可シ

第二百三十六條 凡ソ故意身体折傷ニ就テノ
刑ハ若シ其重罪ノ所業ヲ為サント欲スルノ
故意一時ノ激怒ニ出テ、之ヲ行ヒ而メ直ニ
其行ヲ果シタル者ナルハ一週間ヨリ少カ
ラス一ヶ月ヨリ多カラサル域若禁ニ処シ或
又其重罪所業ノ鬪毆ヨリ出テシ場合ニ於テ
ハ一週間ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサ
ル禁錮ニ処ス可シトス

第二百三十八條 凡ソ其故意ハ身体折傷或ハ
健康傷害ヲ為スノ目的ニ非スシテ某人ニ傷
害ヲ加ヘタル者ハ折傷ノ重罪犯ナリトス或
ハ又害者折傷ニ依テ督責ヲ加ヘ若クハ威推
ヲ施シ其権限ヲ超出スルハ亦折傷ノ重罪
犯ナリト為ス

此重罪犯ハ故意身体折傷或ハ健康傷害(第二百三十六條)ト其刑ヲ同ウス可シ

第五十七 過失殺傷ノ罪

○佛蘭西

第三百十九條 疎忽、疎虞、懈怠又ハ規則ヲ遵守セサル事ニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺シ又ハ人ヲ殺スノ理由ヲ爲ス者ハ三月ヨリ少カラスニ年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且五十「フ」ラニクヨリ少カラス六百「フ」ラニクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百二十條 (千八百六十三年五月十三日如

左改ム) 疎忽又ハ疎虞ニ因テ人ヲ創傷シ又ハ毆撃シタル時ハ其犯人六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ

且十六フランクヨリ少カラス百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミノ言渡ヲ受ク可シ

○獨逸

第二百二十二條 虞忽懈怠ニヨリ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年ヨリ短カラサル時間徒刑ニ処ス可シ
如シ其犯人己レノ官職工業ノ務メニヨリ注意スヘキヲ懈リタルハ五年ノ禁獄ニ加等スルヲ得可シ

第二百三十條 虞忽懈怠ニ因テ人ヲ傷シタル者ハ三百フランクヨリ多カラサル罰金又ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ処ス可シ
若シ其傷ヲナシタル犯人職務職業又ハ工業ニヨリ時ニ注意スヘキヲ怠リタル時ハ三年ヨリ長カラサル禁獄ニ処ス可シ

第二百三十一條 何レノ場合ヲ論セス傷ヲナシタル時ハ本刑ノ外裁判所ニ於テ其傷害ヲ被ムリタル者ノ求メニヨリ其者ノ爲メニ二千フランクニ至ル罰金ヲ命スルヲ得可シ
此ノ場合ニ於テハ傷害ヲ被ムリタル者其餘ノ罰金ヲ取ルヲ得ス
其罰金ヲ出スヘク命セラレタル者多衆ナレハ皆連帶ス可シ

第二百三十二條 故ヲニ輕傷ヲナシ並ニ虞忽

懈怠ニヨリテ傷ヲナシタル者ハ其訴ヲ待ツ
テ罪ヲ論ス可シ(第百二十三條)第百二十三條
第百二十九條(若シ其犯人職務職業又ハ工業ニヨリ特ニ
注意スヘキ義務アル片ハ此例ニ非ラス
第百九十五條第百九十六條及ヒ第百九十八
條ノ條々ヲ此條ニ記載シタル場合ニモ亦通
シテ用フルヲ得可シ

○白身義

第百十八條 凡過失ニ因リ人ヲ殺傷スル者
ハ過失殺傷ヲ以テ論シ罪ヲ科ス可シ

第百十九條 凡意外ニ出テ人ヲ殺ス者ハ三
月ヨリ二年マテノ獄ニ処シ五十年ヲ
ヨ

リ一千フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第百二十條 凡意外ニ出テ人ヲ毆傷スル者

ハ八日ヨリ二月マテノ獄ニ処シ五十フラン
クヨリ五百フランクマテノ罰金ヲ命ス可ク
若クハ此一刑ニ処ス可シ

第百二十一條 凡死若クハ篤疾ヲ起スヘキ
物質ヲ用ヒ意外ニ出テ人ヲ疾病ニ致シ若ク
ハ動作ノ害ヲ生スル者ハ八日ヨリ一年マテ
ノ獄ニ処シ二十六年ヲヨリ二百フラン
クマテノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑ニ処
ス可シ

第百二十二條 凡意外ニ出テ鐵路ニ碍障ヲ
爲シ人ヲ危難ニ致ス者ハ八日ヨリ二月マテ

ノ獄ニ処シ二十六「フランク」ヨリ二百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可ク若クハ此一刑ニ処ス可シ

若シ其人ヲ傷スル者ハ一月ヨリ三年マテノ獄ニ処シ五十「フランク」ヨリ三百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ
若シ其人ヲ死ニ致ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ処シ一百「フランク」ヨリ六百「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

○埃及

第二百十三條 疎忽、疎虞、懈怠ニ因リ及ヒ規則ヲ遵守セサルニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺

セシ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百十八條 疎忽、疎虞、懈怠ニ因リ又ハ規則ヲ遵守セサルニ因リ人ニ創傷ヲ被ムラシメシ者ハ一週ヨリ少ナカラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

○英吉利

凡法ニ於テ爲スヘキ事ヲ爲シ及ヒ實ニ思慮ノ及ハサル所ニシテ人ヲ誤殺スル者ハ並ニ其罪ヲ免ルス假令ハ斧ヲ把テ薪木ヲ折クニ其斧頭飛脱シテ旁人ヲ殺シ或ハ標的ニ向テ斧銃ヲ發ツニ突然ト人アリ其道ニ出テ依テ殺

ス者ノ類ヲ謂フ誤殺人

允父師ノ子弟ヲ教導スルニ依テ之レヲ毆答
シ或ハ法官ノ罪犯ヲ決罰スル等法ニ依リ事
ヲ行フテ因テ死ニ致ス者ハ並ニ誤殺ト爲シ
テ其罪ヲ免ルス其毆ツ可カラサル所ヲ答テ
若クハ兇器ヲ以テ撃テ或ハ過度ニ決罰ヲ加
ヘル等非法ニ事ヲ行フテ因テ死ニ致ス者ハ
並ニ毆殺トナシ其罪ニ坐ス事情惡ムヘキ者
ハ仍ホ謀殺罪ト爲シテ論ス父師殺子弟子
允法ニ於テ爲スヘカラサル事ヲ爲シ因テ誤テ
人ヲ死ニ致ス者ハ無心鬪毆殺ト爲シ重罪ニ
坐シ鬪毆殺ヲ以テ論ス假令ハ二人全又ヲ振
ヒ遊戯シテ因テ誤テ人ヲ殺ス者ノ如キヲ謂

フ

若シ法ニ於テ爲スヘキヲ爲スト雖モ法ニ
依テ其事ヲ行ハス若クハ思慮ヲ用ヒスシテ
因テ誤テ人ヲ死ニ致ス者モ亦無心鬪毆殺ト
ナシ其事情ニ依テ過誤鬪毆謀殺罪等ニ坐ス
假令ハ工匠ノ村里人行稀少ナル所ニ於テ預
メ報知シテ屋上ヨリ瓦石材木等ヲ投擲シテ
下ニ人アリ死ニ致ス者ハ乃チ誤殺ト爲ス如
シ都下人行盈滿ノ地ニ於テハ預メ報知スト
雖モ如シ死ニ致ス者ハ乃チ鬪毆殺ヲ以テ論
ス如シ下ニ人アルヲ知リ告知セスシテ瓦
石材木等ヲ投擲シ因テ死ニ致ス者ハ乃チ謀
殺ヲ以テ論スルノ類ヲ云フ無心鬪毆殺

九醫官藥法ヲ失錯シ因テ人ヲ死ニ致ス者ハ誤
殺ヲ以テ論スト雖モ如シ庸醫未タ其道ニ精
通セス或ハ其心ヲ用ヒスニテ人ヲ治療シ因
テ人ヲ死ニ致ス者ハ鬪毆殺ヲ以テ論ス庸醫
殺人

第五十八 決鬪ノ罪

○獨逸

第二百一條 人ヲ殺スヘキ兵器ヲ以テ決鬪ヲ
挑唆シタル者並ニ其挑唆ニ應シタル者ハ六
月ヨリ長カラサル監禁ニ処ス可シ

第二百二條 決鬪ヲ挑ミタル片一方ノ者ヲ死
ニ致スヘキ意ヲ陳述シ而テ其約シタル決鬪
ノ種類ニヨリ其意判然タル片ハ二ヶ月ヨリ
一年ニ至ル監禁ニ処ス可シ

第二百三條 決鬪ノ挑唆ヲ司リ又其事ヲ一方
ノ者ヘ傳ヘタル者決鬪ノハ六月ヨリ長カラ
サル監禁ニ処ス可シ

第二百四條 決鬪ヲ挑唆シタル者及ヒ之レニ

應シタル者並ニ其仲人タル者若シ其決闘者ノ雙方闘爭ヲ始メサル前本心ヨリ拋棄シタルキハ其刑ヲ免ス可シ

第二百五五條 決闘ノ刑ハ三ヶ月ヨリ短カラス
五年ヨリ長カラサル監禁ニ処ス可シ

第二百六條 決闘ニ於テ一方相手ヲノ者ヲ殺シタル者ハ二年ヨリ短カラサル監禁ニ処シ若シ決闘ニ於テ決闘者ノ一方ノ者ヲ必ス死ニ致スヘクトアルキハ三ヶ月ヨリ短カラサル監禁ニ処ス可シ

第二百七條 決闘者ノ一方ノ者決闘ニ付契約シタル規則又其慣習ノ規則ヲ故ラニ犯シテ其相手ヲ殺シ又傷シタルキハ故殺闘毆傷闘毆等ノ一般ノ條々ニ循ヒテ論ス但其刑前數條ニ掲載シタル刑ヨリ輕キキハ此例ニ非ラス

第二百八條 若シ介副人ナクシテ決闘ヲナシタルキハ本刑ヲ其央ニ加増スルヲ得可シト雖トモ十年ニ過ル可ラス

第二百九條 決闘ヲ荏苒ニ止メルヲ盡カシタル仲人並其決闘ニ立會ノ爲ニ迎ラレタル証人醫師及ヒ外科醫師ハ皆其罪ヲ免ス可シ
第二百十條 故ラニ耻辱ノ徵候ヲ以テ又ハ耻辱タルト脅迫シテ或ル人ヲシテ他人ト決闘スヘキヲ教唆シタルキ若シ決闘ヲ為シタレハ其教唆者ハ三ヶ月ヨリ短カラサル監禁

ニ処ス可シ

○白耳義

第四百二十三條 允決闘セントツケケル挑ム者ハ十五日ヨリ三月マテノ獄ニ処シ一百「フラン」クヨリ五百「フラン」クマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十四條 允決闘ヲ諾セサル者ヲ衆ニ誹謗スル者ハ罪前條ニ同シ

第四百二十五條 允人ニ失敬ヲ加ヘ因テ決闘ヲ乞フニ致ス者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ処シ一百「フラン」クヨリ一千「フラン」クマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十六條 允兵器ヲ持シ決闘ニ臨ムト

雖モ其殺傷セサル者ハ一月ヨリ六月マテノ獄ニ処シ二百「フラン」クヨリ一千「フラン」クマテノ罰金ヲ命ス可シ
若シ兵器ヲ持セス決闘ニ臨ム者ハ第四百二十三條ノ法ニ処ス可シ

第四百二十七條 允決闘ヲ爲シ傷ヲ被ラシムル者ハ二月ヨリ一年マテノ獄ニ処シ三百「フラン」クヨリ一千五百「フラン」クマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十八條 允鬪傷シ因テ疾病若クハ動作ヲ害スルニ致ス者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ処シ五百「フラン」クヨリ二千「フラン」クマテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百二十九條 九闘傷シ因テ命ニ關スル篤疾若クハ終身廢疾ニ致シ若クハ機器ヲ失ハシメ若クハ四支ヲ折ル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ処シ一千「フランク」ヨリ三千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十條 九決闘シ死ニ致ス者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ処シ二千「フランク」ヨリ一萬「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十一條 九方畧ヲ用ヒ決闘ニ誘導スル者ハ其決闘者ト同罪トス
若シ誘導スト雖モ決闘ニ至ラシメサル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ処シ一百「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十二條 九第四百二十七、四百二十八、四百二十九及四百三十條ノ決闘ニ會シ証據人トナル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ処シ一百「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十三條 九第四百二十三條以下ノ法ヲ犯ス者ニシテ第五十九條ノ期ヲ過キス更ニ決闘律ヲ犯ス者ハ以上ノ數條ニ依リ其最モ重キニ処ス可ク若クハ其最モ重キヲ倍科スル「アリ」

○英吉利

九文書ヲ送りチヤシチスツフ挑ミフ詰同及ヒ爲メニ之ヲ

遞送スル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處
断ス其事情ノ輕重ニ從テ期數ヲ定ム
若シ二人預メ鬪毆ヲ爲サント期ニ後之ヲ行
フ者ハ自ラ人ヲ殺サント欲スルノ意アルニ
似タリ因テ鬪毆ノ最モ大ナル者ト爲シ重罪
ニ坐ス送文書挑爭鬪

第五十九

法ニ背キ人ヲ逮捕或ハ禁錮シ及其
他自主ノ權ヲ害スル罪

○佛蘭西

第三百四十一條 相當ナル官吏ノ命ナク且法
律ニ循ヒ犯人ヲ逮捕ス可キ場合ニ非スシテ
人ヲ逮捕シ又ハ禁錮シタル者ハ有期ノ徒刑
ニ處セララル可シ

法ニ背キテ人ヲ禁錮スル者ニ其場所ヲ貸與
ヘシ者ハ同上ノ刑ニ處セララル可シ

第三百四十二條 若シ一月以上ノ時間法ニ背
キ人ヲ禁錮セシ時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處
セララル可シ

第三百四十三條 若シ第三百四十一條ニ記シ

タル犯人未タ其罪ノ訴ヲ受ケサル中其逮捕
又ハ禁錮ヲ爲シタル日ヨリ十日ニ至ラサル
前ニ其逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ赦宥セ
シ時ハ其犯人ノ刑ヲ二年ヨリ少カラス五年
ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス
可シ
但シ其犯人ニ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多
カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ
得可シ

第三百四十四條

第一 衣服ヲ僭用シ姓名ヲ詭リ又ハ官署ノ
命ヲ偽リテ人ヲ逮捕シタル時
第二 逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ殺サシ
ト脅迫シタル時

此等ノ場合ニ於テハ其犯人無期ノ徒刑ニ處
セラル可シ
又逮捕又ハ禁錮ヲ受ケシ者ノ身體ヲ痛苦セ
シメタル時ハ其犯人死刑ニ處セラル可シ

○獨逸

第二百三十四條 計畧恐嚇暴行ヲ以テ人ヲ掠
奪シテ窘窮切迫セシメ又ハ奴僕買奴ノルイ
トナシ又ハ外國ノ海陸軍隊ニ編入セシメタ
ル者ハ誘拐ノ罪トナシ徒刑ニ處ス可シ

第二百三十九條 故ラニ又ハ非理ニ人ヲ獄ニ
繫キ又ハ他ノ方法ヲ以テ人ノ自由ヲ奪フタ

ル者ハ禁獄ニ処ス可
若シ其自由ヲ奪フタル時間一週日ヲ過キタ
ル時又ハ其捕縛等ヨリ身體ニ重傷ヲ爲シ又
ハ其所爲ニヨリ之レヲ爲シタル時ハ十年ヨ
リ長カラサル徒刑ニ処シ若シ酌量軽減アル
片ハ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ処ス可シ
其自由ヲ奪ヒ又ハ其禁獄中ノ所爲ヨリシテ
人ヲ死ニ致シタル時ハ三年ヨリ短カラサル
徒刑ニ処シ若シ酌量軽減アル片ハ三月ヨリ
短カラサル禁獄ニ処ス可シ

○白耳義

第四百三十四條 凡官吏ノ命アルニ非ス若ク
ハ國法ノ許ス所ニ非スシテ人ヲ捕縛繫獄シ
若クハ捕縛繫獄セシムル者ハ三月ヨリ二年
マテノ獄ニ処シ二十六「フランク」ヨリ二百「フ
ランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

第四百三十五條 凡不法ノ拘執ヲ爲シ十日ヲ
過クル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ処シ五
十「フランク」ヨリ三百「フランク」マテノ罰金ヲ
命ス可シ

第四百三十六條 凡不法ノ拘執ヲ爲シ一月ヲ
過ル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ処シ一百
「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ命
ス可シ

第四百三十七條 凡官命ヲ詐稱シ官服ヲ僭着

シ官吏ノ姓名ヲ偽リ或ハ迫ルニ死ヲ以テシ
テ人ヲ拘執スル者ハ監役ニ処ス可シ

第四百三十八條 凡人ヲ拘執シ拷打スル者ハ

十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ処ス可シ

若シ拷打シ因テ篤疾終身廢疾機器損失四支

折傷等ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ

懲役ニ処ス可シ

若シ因テ死ニ致ス者ハ終身懲役ニ処ス可シ

第四百三十九條 凡官命ニ非ス國法ノ詩ス所

ニ非スシテ家主ノ承諾ヲ待タス恐喝若クハ

暴行若クハ墻戸ヲ破壊超越シ或ハ偽鍵ヲ以

テ常人ノ居家住屋及其附属ノ所ニ入ル者ハ

十五日ヨリ二年マテノ獄ニ処シ二十六「ラ

ニクヨリ三百「ラニクマテノ罰金ヲ命ス可

シ

第四百四十條 凡官命ヲ偽リ官服ヲ着シ官吏

ノ姓名ヲ詐稱シ或ハ夜間ノ所行二人以上ノ

所行兇器ヲ持スル所行ノ三事ヲ兼子前條ノ

罪ヲ犯ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ処シ

一百「ラニクヨリ五百「ラニクマテノ罰金

ヲ命シ且ツ茅三十三條ノ奪権ニ処シ五年ヨ

リ十年マテノ警察ヲ受ケシムル「ラアリ

第四百四十一條 凡茅四百四十條ノ犯罪ヲ為

サント試ル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ処

シ五十「ラニクヨリ三百「ラニクマテノ罰

金ヲ命ス可シ

第四百四十二條 凡所有主及び稅戶家賃居出
スルノ承諾ヲ請ハス第四百三十九條ニ枚舉
スル家屋等ニ入り夜間人ニ認メラル、者ハ
十五日ヨリ二年マテノ獄ニ処シ二十六「
シ」クヨリ三百「
シ」クマテノ罰金ヲ命ス可
シ

○埃及

第四百四十九條 何人ニ限ラス相當ナル官吏
ノ指令ナク且ツ別段ノ法式ニ循ヒ犯罪被告
人ヲ逮捕ス可キ法律及ヒ規則外ノ場合ニ於
テ人ヲ逮捕又ハ禁錮シタル者ハ六月ヨリ少
シカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ処セララル可シ

第四百五十條 何人ニ限ラス枉ニ人ヲ禁錮ス
ル場所ヲ故ラニ貸與ヘタル者ハ三月ヨリ少
シカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ処セララル可シ

第四百五十一條 第四百四十九條ニ記シタル
場合ニ於テ官吏ノ着ス可キ禮服ヲ偽リ着シ
又ハ官名ヲ偽リ述ヘ或ハ官吏ノ偽造ノ命令
書ヲ示シテ人ヲ逮捕シタル時ハ其犯人有期
ノ徒刑ニ処セララル可シ○又枉ニ逮捕セシ者
ヲ殺サント脅迫シ又ハ其身体ヲ痛苦セシメ
タル時ハ其犯人亦有期ノ徒刑ニ処セララル可
シ

第六十 人ニ對シ或ハ財産ニ對スル強迫ノ罪

○佛蘭西

第三百五條 (千八百六十三年五月十三日如左

改ム)無名ノ書類又ハ記名ノ書類ヲ以テ人ヲ
謀殺或ハ毒殺セント脅迫シ又ハ死刑無期ノ
徒刑流刑ニ処ス可キ暴行ヲ人ニ加ヘント脅
迫シタル者其指示セシ場所ニ金額ヲ送ル可
キノ強令又ハ其他ノ契約ヲ行フ可キノ強令
ヲ以テ其強迫ヲ爲シタル時ハ二年ヨリ少カ
ラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処
セラレ且百五十フランクヨリ少カラス千フ
ランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可
シ

且其犯人ハ其刑ニ処セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十ニ條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ

又其犯人ハ其刑ニ処セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百六條 (千八百六十三年五月十三日如左) 改ム) 若シ其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ行ハシムルヲ十キ時ハ其犯人一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且百フランクヨリ少カラス六百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此場合ニ於テ其犯人ハ前條ニ記スル所ト同シク政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百七條 (千八百六十三年五月十三日如左) 改ム) 若シ言詞ヲ以テ前條ニ記シタル脅迫ヲ爲シ且其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ爲シタル時ハ其犯人六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且二十五フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此場合ニ於テ其犯人ハ前條ニ記スル所ト同シク政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百八條 (千八百六十三年五月十三日如左) 改ム) 言詞又ハ文書類ヲ以テ第三百五條ニ記

セシ以外ノ暴行ヲ加ヘント脅迫シ且其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ爲シタル者ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且十六「フラン」クヨリ少カラス百「フラン」クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミニニ処セラル可シ

第四百條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)脅迫又ハ暴行ヲ以テ義務、契約、算還ノ旨ヲ記シ又ハ此等ノ事ヲ爲サシムル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セシメシ者又ハ其書類、証書類ヲ渡サシメタル者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

書面或ハ言詞ヲ以テ人ノ名望ヲ辱ムヘキ漏告及ヒ誣証ヲ爲スタ脅迫シ金額又ハ財産ヲ渡サシメシ者又ハ前文ニ記シタル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セシメ又ハ其書類、證書類ヲ渡サシメシ者又ハ此等ノ事ヲ試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且五十「フラン」クヨリ少カラス三千「フラン」クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○獨逸

第二百四十條 正理ニヨラサル暴行ヲ以テ又ハ輕重罪ヲ爲サント恐嚇シテ人ニ事ヲ爲サ

シメ又ハ為ス所ノ事ヲ止メシメ又ハ為ス所
ノ事ヲ肯セシメタル者ハ一年ヨリ長カラサ
ル禁獄又二百「タ」ルヨリ多カラサル罰金
ニ処ス可シ

之レヲ犯サントシタル所業モ亦罰ス可シ
訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

第二百四十一條 重罪ト称ス可キ害ヲ十サ
ト人ヲ恐嚇シタル者ハ六月ヨリ長カラサル
禁獄又八百「タ」ルヨリ多カラサル罰金ニ
処ス可シ

犯カサントスルノ所業モ亦罰ス可シ
訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

第二百五十三條 自ラ不正ノ利ヲ得ントスル
為メ又ハ之ヲ人ニ得セシメントスル為メ暴
行脅迫ヲ以テ人ヲシテ強テ事ヲ為サシメ又
之ヲ止メシメ又ハ之ヲ肯ンセシメタル者ハ
勒索ノ罪トナシ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ
処ス可シ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ
第二百五十四條 勒索ヲ為スニ謀殺放火洪水
ヲ以テ恐喝シタル者ハ五年ヨリ長カラサル
徒刑ニ処ス可シ

第二百五十五條 勒索ヲ為スニ人ニ對シ暴行
ヲ為シ又現ニ其身体生命ニ罹ル危難ニ及フ
ヘク脅迫シタル者ハ強盜ト同シク論ス

第二百五十六條 勒索ニヨリ禁獄ニ処セラレ

タル者ハ公権ヲ剥奪スルヲ得可シ強盜勒
索ニヨリ徒刑ニ処セラレタル者其餘政府ノ
監察ニ付ス可シ

第二百八十八條 裁判所ヨリ施行スヘク嚴命
アリト脅迫ニ姦計ヲ以テ故ラニ其債主ヲ害
セントスルノ意ニテ其財産ノ全部又ハ其一
部ヲ讓渡サシメ又之レヲ騙取シタル者ハ二
年ヨリ長カラサル禁獄ニ処ス可シ
債主ノ訴ヲ待ツテ其罪ヲ論ス可シ

○白耳義

第三百二十七條 凡無名若クハ有名ノ書類ヲ
以テ人ノ身体或ハ其財産ニ損害ヲ加ヘント

要シ殊ラニ命令シ劫カスニ死刑若クハ懲役
タル可キヲ以テスル者ハ六月ヨリ五年マテ
ノ獄ニ処シ一百フランクヨリ五百フランク
マテノ罰金ヲ命ス可シ
識印ハ契約書ニ強ヒルテ
何ノ日ニ幾許ノ金額、
ヲ渡セト命令スル等、

若シ其劫カスト雖モ命令スル所ナキモノハ
三月ヨリ二年マテノ獄ニ処シ五百フランク
ヨリ三百フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ
第三百二十八條 凡口舌ヲ以テ脅カシ命令ス
ル所アル者ハ二月ヨリ一年マテノ獄ニ処シ
二十六フランクヨリ二百フランクマテノ罰
金ヲ命ス可シ

第三百二十九條 凡形容又ハ譬諭ヲ以テ人ノ

身体若クハ財産ニ損害ヲ加ヘント要シ脅カ
スニ死刑或ハ懲役タル可キヲ以テスル者ハ
八日ヨリ三月マテノ獄ニ処シ二十六「フラン
クヨリ一百「フランクマテノ罰金ヲ命ス可シ
第三百三十條 凡無名若クハ有名ノ書類ヲ以
テ人ノ身体若クハ財産ヲ害セント要シ命令
スル所アリテ劫カスニ監役タル可キヲ以テ
スル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ処シ一百
「フランクヨリ五百「フランクマテノ罰金ヲ命
ス可シ
若シ其命令スル所無キ者ハ十五日ヨリ六月
マテノ獄ニ処シ二十六「フランクヨリ二百「フ
ランクマテノ罰金ヲ命ス可シ

第三百三十一條 凡第三百二十七條ノ犯罪者
ハ本刑ノ外尚ホ第三十三條ノ奪權ニ処シ五
年ヨリ十年マテノ警察ヲ受ケシムル「アリ

○埃及

第二百二十八條 何人ニ限ラス人ヲシテ特定
ノ場所ニ金高又ハ物件ヲ持来ラシメ或ハ之
ヲ送ラシムル為メ或ハ其他何事ニ因ラス一
箇ノ約束ヲ行ハシムル為メ書面ヲ用ヒ又ハ
他人ノ傳言ヲ用ヒ死刑又ハ無期ノ徒刑ニ當
ル可キ暴行ヲ為サント脅迫シタル者ハ有期
ノ徒刑ニ処セラル可シ
又右脅迫シタル暴行前ニ記スル所ヨリ更ニ

輕キ時又ハ犯人親シク口上ヲ以テ其脅迫ヲ
為シタルキハ其犯人一年ヨリ少ナカラス三
年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ
且三百ポアストルヨリ少ナカラス二千ポア
ストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ
第二百八十九條 暴行ヲ為シテ人ヨリ義務ノ
證書或ハ義務ヲ盡クシタル證書ヲ奪ヒ又ハ
暴行ヲ為シ人ヲシテ強テ此類ノ證書ニ姓名
ヲ手署シ或ハ鈴印セシメタル者ハ有期ノ徒
刑ニ処セラル可シ

○英吉利

九 文書ヲ以テ人ヲ恐喝シ其財物証書等ヲ強奪

セントスル者ハ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ
処レ或ハ入獄打背罪ニ処断ス財物証書等ヲ
盜ント欲シ強テ乞求スル者ハ五年ノ徒刑或
ハ入獄ニ処断ス

若シ文書ヲ送り人ヲ死罪或ハ七年以上ノ徒
罪ニ誣陷シ財物ヲ強奪セントスル者ハ五年
ヨリ終身ノ徒刑ニ処シ或ハ入獄ニ処シ若ク
ハ若役監牢打背罪ヲ加フ
若シ人ヲ罪ニ誣ヒ恐嚇シテ證書ヲ破壊變改
收受若クハ姓名押印ヲ為サシメ或ハ他人ノ
名印ヲ詐為セシムル者モ罪亦同シ止テ打背
罪ヲ除免ス

九 人ニ文書ヲ送り殺害セント恐喝シ若クハ情

ヲ知ラ之ヲ逸送スル者ハ重罪ニ処シ五年ヨ
リ十年ニ止ル後罪ニ処シ或ハ二年ニ止ルハ
獄ニ処シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ如シ年
十六以下ノ男子犯ス者ハ判事ノ適意ニ因テ
打背罪ヲ加フ文書恐喝人

凡他人ノ市場ニ於テ穀麥菜蔬等ヲ販賣スルヲ
恐喝シテ妨障シ或ハ人ノ為メニ品物ヲ運輸
スルヲ恐喝シテ支留スル者ハ邏卒裁判所ニ
於テ三ヶ月ノ入獄及ヒ贖罪ニ處断ス

若シ諸匠人ヲ教令シ半途ニシテ其為ス所ノ
工作ヲ廢止セシメ或ハ他人ノ為メニ工作ヲ
為サン一ヲ勒禁シ或ハ其朋社ニ附従セシメ
或ハ其朋社ニ罰金ヲ出サンノル等モ罪亦同シ

恐妨人販賣

○プロイセン (肝八百廿一刑法四年四)

第二百十二條 凡ソ某人ニ對シ文書上若クハ
口舌上ニテ重罪或ハ輕罪ノ所行ヲ犯シ脅迫
ニ依テ事ヲ舉行シ又ハ廢止セシムル一ヲ擅
ニシ若クハ強テ之ヲ為サシムル一ヲ果シ得
サル者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ處
セラル可シ

第二百三十四條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ
不法ナル利益ヲ營マンカ為メニ某人ニ對シ
文書上若クハ口舌上ニテ重罪又ハ輕罪ノ所
行ヲ犯シ脅迫ニ依テ事ヲ舉行シ又ハ廢止セ

シムルヲ擅ニスル者ハ脅迫營利ノ罪犯ナ
リトス

○「カツキセ」
(肝八百改六正十八年刑法十)

第二百一條 凡ソ此律中特別ニ論シタル場合
ノ外某人ヲシテ事ヲ舉行シ又ハ容諾シ又ハ
廢止セシメシカ爲メニ擅威或ハ脅迫ヲ行フ
者若シ擅威脅迫ノ不法ニ涉ルキ或ハ某人ヲ
シテ擅威脅迫ニ藉リ不正即チ猥褻ノ所行ヲ
為サシムルニ涉ルキハ擅威強令ノ罪犯ニ依
テ論シ二年ヨリ多カラサル禁獄或ハ四年ヨ
リ多カラサル工役場ノ刑ヲ以テ之ニ処ス可
シ

第二百八十二條 凡ソ自己又ハ他人ノ爲メニ
シレノ権内ニ在ラサル財産ノ利益ヲ營ムヘ
キ故意ヲ以テ某人ニ對シ何レノ方法ヲ論セ
ス損害ト爲ルヘキ脅迫ニ依テ事ヲ舉行シ或
ハ廢止シ或ハ容諾セシムルヲ擅ニスル者
ハ脅迫營利ノ罪犯ナリトス

○「ベツセ」
(肝八百四十一刑法九)

第二百六十八條 凡ソ某人ニ對シ不法ナル擅威
ノ罪ヲ犯シ或ハ其實行真ニ恐怖スヘキ原由
アル脅迫ニ依テ事ヲ舉行シ容諾シ廢止スル
ヲ強テ為サシムル者若シ其所爲較マ重キ
重罪ニ涉リタルニ非レハ其擅威脅迫ヲ被ル

人ノ呈訴ヲ待テ乃千一年ヨリ多カラサル禁
獄又ハ懲治監ノ刑ニ処セララル可シ

第三百四十九條 九ツ強盜罪犯ノ場合ヲ除キ
自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マ
ンカ為メ某人ニ對シ擅威若クハ脅迫ヲ以テ
事ヲ舉行シ容諾シ廢止スルヲ強テ為サシ
メタル者ハ脅迫營利ノ重罪犯ナリトス

○千ユ一リニギンユ、スタ一テン (八千)

百四十九(九)

第五百十八條 九ツ某人ヲメ事ヲ舉行シ容諾
シ廢止スルヲ強テ為サシメンカ為メニ權
理ナク或ハ權限ヲ越ヘテ腕力或ハ損害ト為

ルヘキ脅迫ヲ施行スル者若シ其所為ノ較ヤ
重キ重罪ニ涉リタルニ非レハ脅迫ヲ被ムリ
シ人ノ之ヲ糾彈シ及ヒ処刑スヘキヲ稟訴
スルヲ待テ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ
四年ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ処ス可シ
トス

九ツ父母、後見人、及ヒ教育父母其子女、若クハ
後見ヲ受クベキ年少者及ヒ教育ヲ受クヘキ
年少者ニ對シ上項ノ如キ方法ヲ以テ結婚ノ
ヲ強ユルニ當リ該脅迫罪犯ヲ処決スルノ
制規ハ其レカ為メ未タ結婚ノ成績ヲ現ハサ
サルニ際シ脅迫セラレシ人ノ其処罪ヲ稟請
スル片之ヲ適用スヘシトス

第百五十五條 凡ソ強盜罪犯ノ外自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル財産ノ利益ヲ營マンカ
タメ腕カラヲ施シ若クハ現ニ身体又ハ生命ノ
危難ニ罹ルヘキ脅迫ニ依リ某人ヲメ事ヲ舉
行シ容諾シ廢止スルヲ強テ為サシムル者
ハ強盜ト同般ニ処決セラル可シ

○ヲルデングールク (千七百五十八)

第百九十五條 凡ソ擅威ニ依リ重罪又ハ輕罪
ノ所行ヲ犯シ脅迫ヲ以テ某人ニ事ヲ舉行シ
若クハ廢止スルヲ強テ為サシメ或ハ之ヲ
為サシムルヲ果シ得サル者ハ一年ヨリ多

法刑

カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ
第百十八條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不
法ナル利益ヲ營マンカタメ擅威ヲ以テ重罪
又ハ輕罪ノ所行ヲ犯シ脅迫ニ依リ某人ヲメ
事ヲ舉行シ若クハ廢止スルヲ強テ為サシ
メ或ハ之ヲ為サシムルヲ果シ得サル者ハ
脅迫營利ノ罪犯ナリトス

○ブラーウシシエウロイク (千八百

七月十日)

第百七十八條 凡ソ某人ヲ抑壓シテ事ヲ舉行
シ或ハ容諾セシメ或ハ廢止スルヲ強テ為
サシメンカ為メニ擅威若クハ危險ノ脅迫ヲ

加フル者若シ其所為他ノ重罪ヲ犯セシニ涉
ラサレハ擅威強令ノ罪犯ニ依テ論シ之ヲ其
処刑ニ諛ツ可シトス

第百七十七條 凡ソ竊盜ヲ行フ為メニ非レ
自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マ
シカタメ某人ニ對シ擅威若クハ危險ノ脅迫
ヲ加フル者ハ強盜ト同般ノ刑ニ処決セラ
ル可シ

第百七十九條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不
法ナル利益ヲ營マンカタメ某人ヲ抑壓シテ
事ヲ舉行シ容諾シ廢止セシムルヲ擅マ、
ニシ而メ危險ナラサル脅迫ヲ加ヘ或ハ某人
ニ對シ重罪ノ所行ヲ犯シ脅迫ヲ加フル者若

シ暴殺又ハ放火ヲ以テセシ片ハ一年ヨリ少
カラサル徒場驅役ノ刑ニ処セラレ其他ハ一
年ヨリ多カラサル禁獄或ハ相當ノ罰金ヲ科
セラ
ル可シ

○リベツク (七十八百六十三刑三詳)

第百七十五條 凡ソ某人ニ對シ文書上或ハ口
舌上ニテ重罪又ハ輕罪ノ所行ヲ犯シ以テ脅
迫ヲ加ヘ之ニ依テ事ヲ舉行シ若クハ廢止ス
ルヲ強テ為サシメタル者或ハ如此ノ目的
ナシニ及殺若クハ燒殺ヲ以テ某人ヲ脅迫シ
タル者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ノ刑ニ処
セラ
ル可シ

第百九十八條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ営マンカタメ某人ニ對シ文書上或ハ口舌上ニテ罪犯所行ヲ為スヲ以テ脅迫シ之ニ依テ事ヲ舉行シ又ハ廢止セシムルヲ擅マ、ニスル者ハ脅迫營利ノ罪犯ナリトス

○バムブールク (肝三十八百六十九刑九法四)

第百五十二條 凡ソ某人ヲシテ事ヲ舉行シ容諾シ廢止スルヲ強テ為サシメンカ為メニ擅威或ハ現ニ身体及ヒ生命ノ危難ニ罹ル可キ脅迫ヲ施行スル者若シ其所為他ノ重罪ヲ犯スニ涉ラサルハ三年ヨリ多カラサル羈

絆ノ刑ニ処セラル可シ

第百五十一條 凡ソ強盜罪犯ノ場合ヲ除キ擅威或ハ現ニ身体又ハ生命ノ危難ニ罹ル可キ脅迫ニ依テ某人ヲメ事ヲ舉行シ容諾シ及ヒ廢止セシムルヲ擅マ、ニシ而メ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ営ムニ由ル者ハ強盜ト同一ニ処刑セラル可シ

第百五十三條 凡ソ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ営マンカタメ某人ヲメ事ヲ舉行シ容諾シ廢止スルヲ強テ為サシメ而メ現ニ身体又ハ生命ノ危難ニ罹ラサル脅迫ヲ施シ及ヒ重罪所行ヲ為スヲ以テ他人ヲ脅迫スル者若シ殺害又ハ放火ヲ以テセシニ涉

リタルハ六ヶ月ヨリ少カラス四年ヨリ多
カラサル羈絆ノ刑ニ処セラレ其他ハ禁獄ノ
刑或ハ三百タラレルヨリ多カラザル罰金
ヲ科セラル可シ

○バユールニ (千八百六十一年刑律十)

第三百三條 凡ソ強盜罪犯ノ場合ヲ除キ自己
又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マンカ
タメ某人ニ對シ事ヲ舉行シ容諾ニ廢止セシ
ムルヲ擅マ、ニスル者ハ脅迫營利ノ罪犯
ニ依テ論シ之ヲ其処刑ニ該ツ可トス
第三百四條 凡ソ脅迫營利ノ目的ナクシテ某
人ニ對シ身体打毆ヲ加ヘ或ハ重罪輕罪ノ所

行ヲ爲スヲ以テ脅迫シ某人ヲメ事ヲ舉行
シ容諾ニ廢止スルヲ強テ為サシムル者ハ
一年以内ノ禁獄ニ処セラレ或ハ三百ギユル
デニヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

○ブレームニ (千八百六十年案十)

第三百五十五條 凡ソ某人ヲメ事ヲ舉行シ容
諾ニ廢止スルヲ強テ為サシメニカ為メ不
法ニ擅威ヲ行フ者或ハ某人ニ對シ身体打毆
ヲ加ヘ或ハ重罪所行ヲ為スヲ以テ脅迫ス
ル者若シ或ハ場合ニ於テ定メタル特別ノ條
例ヲ犯シタルニ非レハ六ヶ月ヨリ多カラサ
ル禁獄ノ刑ニ処セラレ或ハ罰金ヲ科セラル

可シ但シ某人ニ死刑又ハ徒刑ヲ以テ罰セラ
ル可キ重罪ノ所行ヲ為サシメシカ為メニ擅
威ヲ行フタル者或ハ現ニ身体又ハ生命ノ危
難ニ罹ル可キ一或ハ放火スル一ヲ以テ脅迫
ヲ施シタル者ハ三ヶ月ヨリ少カラサル禁獄
ノ刑ニ処セラレ且公務擢用ノ禁ヲ受ク可シ
第四百四條 凡ソ強盜罪犯ノ場合ヲ除キ自己
又ハ他人ノ為メニ不法ナル財産ノ利益ヲ營
マンカタメ擅威或ハ脅迫ニ依テ某人ヲメ事
ヲ舉行シ容諾ニ廢止スル一ヲ強テ為サシム
ル者ハ脅迫營利ノ罪犯ニ依テ論シ該處刑ヲ
與フ可シトス

○「ヲ」スタラリヤ (七年八百六十一)

第二百五十八條 凡ソ脅迫營利ノ罪犯ト為ス
可キモノハ

第一款 強盜ノ場合ヲ除キ不法ニ擅威ヲ行
ヒ或ハ擅威脅迫ヲ以テ(第六百十)何事ヲ問ハ
ス舉行シ容諾ニ廢止スル一ヲ強テ為サシ
ムルモノ

第二款 後條ノ各款ニ記載セシ罪犯ノ脅迫
ニ依リ其實行ノ真ニ似タルヨリシテ有根
ノ憂虞ヲ握起ス可キ原因ノ判然現出セシ
中ニ於テ他人ニ對シ己レノ権限ニ非スニ
テ事ヲ舉行シ容諾ニ廢止スル一ヲ強テ為
サシムルモノ

第三款 惟タ己レニ屬セシ推テ實行スルノ脅迫ニシテ固ヨリ有根ノ憂虞ヲ擡起ス可キヲ以テ其人ヲシテ法ニ背キ濫暴ノヲ舉行シ容諾シ廢止スルヲ強テ爲サシムル者

第二百五十九條 凡ソ前條茅二款ニ論セシ種類ノ脅迫罪犯ト見做ス可キモノハ

第一款 假令有根ノ事實タリ凡之カ爲メ脅迫セラレシ人又ハ其近縁アル人ノ一名カ罪犯ノ所行若クハ名譽

損害ノ所行若クハ他人ノ意想ニ於テ害ヲ受ク可キ所以アル所行ノ罪ヲ歸セラレ可キモノヲ告訴シ或ハ擴布スルヲ以テ脅

迫ヲ行フ者

第二款 脅迫セララル、人又ハ其近縁アル人ノ一名ノ活計若クハ家政ノ事ニ就テ假令有根ノ事實タリトモ其人ノ損害ト爲ル可キ所以アルモノヲ擴布スルヲ以テ脅迫ヲ行フ者

第三款 脅迫セララル、人又ハ其近縁アル人ノ一名ノ身上所行家族ノ關係贏利ノ關係及ヒ其他ノ關係ニ於ル或説ニシテ其風説ハ假令ヒ實事タリ凡他人ノ意想ニ於テ其身分又ハ生業ノ爲メニ損害トナル方法上ノ輕蔑ヲ爲ス可キモノヲ擴布スルヲ以テ脅迫ヲ行フ者

第二百六十條 凡ソ脅迫營利ノ重罪トシテ処決ス可キモノハ脅迫營利ノ目的ヲ達セシ舉行容諾廢止等ニ毫モ權利ヲ有セス且ツ之ヲ覺知セシ片ニ在リトス其他ハ輕罪トシテ処決ス可キナリ

凡ソ脅迫營利ノ罪犯ニ就テ官署ヨリ刑事上ノ追糾ヲ爲ス可キモノハ第百五十八條中第一款ニ記載セシ如キ重罪ノ所行ヲ爲スニ涉リシ片ノミニ在リトス其他ハ被害者ノ直ニ訴フルヲ待テ其追糾ヲ爲ス可キナリ

第二百六十一條 凡ソ脅迫營利ノ重罪犯ハ徒刑ヲ以テ之ニ処ス就中

第一款 第百五十八條中第一款ノ場合ニ

於テハ規則上一年乃至四年ノ時間徒刑ニ処セラル可シ

甲 若シ被害者殊ニ酷烈ナル痛傷ヲ受ケシ片或ハ

乙 若シ殺害放火其他一般ノ危難ニ関セシ脅迫或ハ自然至大ノ財産損害若クハ必ス脅迫セラル、人ノ爲メニ過甚ノ感觸ヲ起ス可キ財産損害ノ脅迫ニ依テ脅迫營利ノ罪犯ニ涉リタル片或ハ

丙 若シ抑壓強迫ヲ以テセル舉行容諾廢止等ニ因テ其抑壓強迫ヲ被ル人ノ身上自由名譽或ハ財産ノ爲メニ至大ノ損害ヲ醸シタル片ハ

四年乃至八年ノ時間徒刑ニ処セラル可シ
第二款 第二百五十八條中茅二及ヒ茅三款
ノ場合ニ於テハ規則上四ヶ月乃至一年ノ
時間徒刑ニ科セラル可シ但シ同時ニ甲乙
丙~~ニ~~記載セシ景況ノ一箇ヲ現生セシキハ
一年乃至四年ノ時間徒刑ニ科セラル可キ
ナリ

凡脅迫營利ノ輕罪犯ハ一ヶ月乃至四ヶ月ノ
時間禁錮ニ処刑セラル可シ

第二百六十二條 凡ソ脅迫營利ノ罪犯ニ當ツ
テナセシ打毆身体折傷健康損害殺害等ハ別
ニ処刑ヲ受ク可キモノトス

第二百六十三條 凡ソ他人ヲ恐怖シ或ハ不安

寧ナラシメントスルノ目的ニ因リ直ニ有根
ノ憂虞ヲ擡動ス可キ方法上ニテ身体自由名
譽及ヒ財産ノ傷害若クハ打毆ヲ以テ脅迫ス
ル者若シ暴殺放火其他一般ノ危険ニ関セシ
脅迫ヲ以テスルニ涉リシキハ之ヲ重罪犯ト
リトシ其他ノ危険ニ関セシ脅迫ハ之ヲ輕罪
トリス

第二百六十四條 凡ソ危険脅迫ノ重罪ハ四ヶ
月以上一年以下ノ徒刑ニ処セラル可シ而メ
若シ全地方又ハ衆民右ノ脅迫ニ因テ恐怖或
不安寧ヲ醸發セシキハ一年以上四年以下ノ
徒刑ニ処セラル可シトス

凡ソ危険脅迫ノ輕罪ハ脅迫セラレシ人ノ呈

訴ヲ待テ乃チ一ヶ月以上四ヶ月以下ノ禁錮ニ処刑ス可シトス

○千ユリビ(六千八百六十一)

第百五十九條 凡ソ強盗ノ場合ヲ除キ自己又ハ他人ノ為メニ不法ナル利益ヲ營マンカタメ其人ヲメ舉行容諾廢止ヲ強テ為サシムル者ハ之ヲ脅迫營利ニ依テ論ニ処刑ヲ行フ可シ就中

第一款 若シ營利ノ為メ人ヲ打毆ニ或ハ現ニ身体又ハ生命ノ危険ニ関スル脅迫ヲ施スニ涉リシ片ハ強盗(場六百九)ト同般ニ処決セラル可シ

第二款 若シ身体生命或ハ財産ニ関シ後日危険ヲ醸サシムヘキノ故意ヲ以テ脅迫スルニ涉リシ片ハ工役場刑又ハ徒刑ニ処セラル可シ

第三款 有根ノ憂虞ヲ發生スヘキ方法上ニ於テ打毆訴訟及ヒ其他ノ一ヲ以テ脅迫ヲ加ヘ脅迫營利ノ罪犯ヲ遂ケタル片ハ禁獄ノ刑ニ処セラル可シ

第百六十條 凡ソ脅迫營利ヲ目的ト為スニ非ヌメ法ニ背キ腕力又ハ損害ノ脅迫ニ依テ他人ニ舉行容諾廢止ヲ強テ為サシムル者ハ禁獄ノ刑ニ処セラレ同時ニ兼テ五百「フラン」ヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ或ハ單

ニ此罰金ノミヲ以テ処決セラル可シ
九ノ重罪ノ全ク成レリト為スハ擅威或ハ脅
迫ニ依テ脅迫セラル、人ノ自由ヲ甚ク損
害シタルキニ在リトス但シ故意ノ目的ヲ遂
ケタルハ此ニ必要ナリトセス

第百六十一條 九ノ暴殺強盜或ハ放火ヲ以テ
脅迫シ此ニ由テ地方或ハ數地方ノ住民ヲメ
心痛若クハ憂虞ヲ醸生セシムル者ハ一年ヨ
リ多カラサル禁獄ノ刑ニ処セラル可シ

第百六十二條 九ノ脅迫セラル、人必ス有根
ノ憂虞ヲ發生セサルヲ得サル景狀ニ於テ法
ニ背キ打毆スルハ或ハ重罪又ハ輕罪ノ所行
ヲ為スハ以テ某人ヲ脅迫スル者ハ二ヶ月

以内ノ禁獄ニ加フルニ二百ヲラニクヨリ多
カラサル罰金ヲ以テ処刑セラル可シ或ハ單
ニ之ト均シキ金高ノ罰金ヲ以テ処決セラル
可シ

第百六十三條 九ノ第百六十條及ヒ第百六十
二條ノ場合ニ於テハ止夕抑壓サレタル人或
ハ脅迫セラレタル人ノ呈訴ヲ待テ裁判上其
罪ノ追糾ヲ為スヘキモノトス



